

工 事 数 量 総 括 表

工 事 名 R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事

国土交通省 関東地方整備局
甲府河川国道事務所 道路管理第二課

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
道路維持 【令和8年度】		式		1		
巡視・巡回工		式		1		
道路巡回工		式		1		
通常巡回	道路巡回員＋巡回運行員	回		91		
通常巡回	職員＋巡回運行員	回		91		
徒歩巡回	普通作業員	日		20		
任意保険料	普通乗用車	台・年		1		
舗装工		式		1		
舗装打換え工		式		1		
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cmを超え30cm以下	式		1		
舗装版破碎(急速施工)	アスファルト舗装版 舗装版厚 18 c m	m2		500		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
殻運搬	舗装版破碎	m3		90		
殻処分	アスファルト殻	m3		90		
上層路盤	粒度調整砕石 M-40 仕上り厚 30mm	m2		500		
上層路盤	再生瀝青安定処理材(40) 仕上り厚 80mm	m2		500		
基層	再生粗粒度アスコン(20) 舗装厚 50mm 1.4m以上3.0m以下	m2		500		
表層	密粒度As混合物ポリマー改質AsⅡ型 (20) 舗装厚 50mm 1.4m以上3.0m以下	m2		500		
切削オーバーレイ工		式		1		
切削オーバーレイ	7cmを超え12cm以下 二層 再生粗粒度アスコン(20) 密粒度As混合物ポリマー改質AsⅡ型 (20)	m2		2,000		
殻運搬(路面切削)	アスファルト殻 (切削材)	m3		200		
殻処分	アスファルト殻 (切削材)	m3		200		
アスファルト舗装補修工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
パッチング	加熱合材	t		5		
パッチング	常温合材	t		1		
区画線工		式		1		
区画線工		式		1		
溶融式区画線	溶融式手動 実線 15cm 厚1.5mm 排水性舗装無	m		600		
溶融式区画線	溶融式手動 破線 15cm 厚1.5mm 排水性舗装無	m		100		
溶融式区画線	溶融式手動 ゼブラ 15cm 厚1.5mm 排水性舗装無	m		100		
溶融式区画線	溶融式手動 矢印・記号・文字 15cm換算 厚1.5mm 排水性舗装無	m		100		
高視認性区画線	リブ式(溶融式) 実線 20cm 黄	m		300		
除草工		式		1		
道路除草工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
道路除草(複合)	肩掛け式 (飛び石防護無し)	m2		5,000		
道路除草(複合)	肩掛け式 (飛び石防護有り)	m2		5,000		
処分費 (発生物処分)	雑草	t		15		
除雪工		式		1		
一般除雪工		式		1		
除雪トラック 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	7t級 4×4 フラ付	時間		30		
除雪トラック 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	7t級 4×4 フラ付	時間		10		
除雪トラック 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	7t級 4×4 フラ付	時間		30		
除雪トラック 【貸与】作業区分D 5:00～8:00	7t級 4×4 フラ付	時間		10		
除雪ローザ 【持込】作業区分A 8:00～17:00	ホイール式1.0m3	時間		20		
除雪ローザ 【持込】作業区分B 17:00～20:00	ホイール式1.0m3	時間		10		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
除雪トレーサ 【持込】作業区分C 20:00～5:00	ホイール式1.0m3	時間		20		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	ホイール・2ステージ型 1.5m級 130PS 簡易フ ラック付き	時間		10		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	ホイール・2ステージ型 1.5m級 130PS 簡易フ ラック付き	時間		10		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	ホイール・2ステージ型 1.5m級 130PS 簡易フ ラック付き	時間		10		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	ホイール・2ステージ型 1.3m級 80PS	時間		10		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	ホイール・2ステージ型 1.3m級 80PS	時間		10		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	ホイール・2ステージ型 1.3m級 80PS	時間		10		
散水車 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	4500L フラック懸架機構付 フラック付	時間		20		
散水車 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	4500L フラック懸架機構付 フラック付	時間		10		
散水車 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	4500L フラック懸架機構付 フラック付	時間		20		
運搬除雪工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 8・9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
ダンプトラック 【持込】作業区分A 8:00～17:00	オンロード・ディーゼル 4t積級	時間		40		
ダンプトラック 【持込】作業区分B 17:00～20:00	オンロード・ディーゼル 4t積級	時間		20		
ダンプトラック 【持込】作業区分C 20:00～5:00	オンロード・ディーゼル 4t積級	時間		40		
凍結防止工		式		1		
凍結防止剤散布車 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	湿潤式4t級、ホッパ容量3.4m3	時間		30		
凍結防止剤散布車 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	湿潤式4t級、ホッパ容量3.4m3	時間		20		
凍結防止剤散布車 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	湿潤式4t級、ホッパ容量3.4m3	時間		200		
凍結防止剤散布車 【貸与】作業区分D 5:00～8:00	湿潤式4t級、ホッパ容量3.4m3	時間		100		
塩化ナトリウム	1t詰パック、支給品	t		400		
歩道除雪工		式		1		
クロー・ハントガレ型除雪機 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	11PS	時間		20		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	11PS	時間		10		
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	11PS	時間		10		
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	16PS	時間		20		
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	16PS	時間		10		
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	16PS	時間		10		
雪道巡回工		式		1		
雪道通常巡回 【持込】作業区分A 8:00～17:00	ライトバン	回		20		
雪道通常巡回 【持込】作業区分C 20:00～5:00	ライトバン	回		20		
待機費		式		1		
情報連絡・作業管理 作業区分C	世話役	時間		10		
待機ハローター 作業区分C	除雪トラック	時間		10		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事						(当 初)
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要	
待機ハローター 作業区分C	凍結防止剤散布車	時間		10			
応急処理工		式		1			
応急処理事業工 (昼間)		式		1			
応急作業	普通作業員	人		300			
応急作業	バックホー運転 (山積み0.45m3)	時間		40			
応急作業	ダンプトラック運転 (10t)	時間		40			
応急作業	ダンプトラック運転 (4t)	時間		60			
応急作業	ダンプトラック運転 (2t)	時間		60			
応急処理事業工 (夜間)		式		1			
応急作業	普通作業員	人		150			
応急作業	バックホー運転 (山積み0.45m3)	時間		20			

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事						(当 初)
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
応急作業		ダンプトラック運転 (10t)	時間		20		
応急作業		ダンプトラック運転 (4t)	時間		40		
応急作業		ダンプトラック運転 (2t)	時間		40		
仮設工			式		1		
交通管理工			式		1		
交通誘導警備員 (昼間)		A	式		1		
交通誘導警備員 (昼間)		B	式		1		
交通誘導警備員 (夜間)		A	式		1		
交通誘導警備員 (夜間)		B	式		1		
直接工事費			式		1		
共通仮設費			式		1		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
共通仮設費		式		1		
運搬費		式		1		
建設機械運搬費		式		1		
共通仮設費 (率計上)		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
道路維持 【令和9年度】		式		1		
巡視・巡回工		式		1		
道路巡回工		式		1		
通常巡回	道路巡回員＋巡回運行員	回		91		
通常巡回	職員＋巡回運行員	回		91		
徒歩巡回	普通作業員	日		20		
任意保険料	普通乗用車	台・年		1		
舗装工		式		1		
舗装打換え工		式		1		
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cmを超え30cm以下	式		1		
舗装版破碎(急速施工)	アスファルト舗装版 舗装版厚 18 c m	m2		500		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
殻運搬	舗装版破碎	m3		90		
殻処分	アスファルト殻	m3		90		
上層路盤	粒度調整砕石 M-40 仕上り厚 30mm	m2		500		
上層路盤	再生瀝青安定処理材(40) 仕上り厚 80mm	m2		500		
基層	再生粗粒度アスコン(20) 舗装厚 50mm 1.4m以上3.0m以下	m2		500		
表層	密粒度As混合物ポリマー改質AsⅡ型 (20) 舗装厚 50mm 1.4m以上3.0m以下	m2		500		
切削オーバーレイ工		式		1		
切削オーバーレイ	7cmを超え12cm以下 二層 再生粗粒度アスコン(20) 密粒度As混合物ポリマー改質AsⅡ型 (20)	m2		2,000		
殻運搬(路面切削)	アスファルト殻 (切削材)	m3		200		
殻処分	アスファルト殻 (切削材)	m3		200		
アスファルト舗装補修工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
パッチング	加熱合材	t		5		
パッチング	常温合材	t		1		
区画線工		式		1		
区画線工		式		1		
溶融式区画線	溶融式手動 実線 15cm 厚1.5mm 排水性舗装無	m		600		
溶融式区画線	溶融式手動 破線 15cm 厚1.5mm 排水性舗装無	m		100		
溶融式区画線	溶融式手動 ゼブラ 15cm 厚1.5mm 排水性舗装無	m		100		
溶融式区画線	溶融式手動 矢印・記号・文字 15cm換算 厚1.5mm 排水性舗装無	m		100		
高視認性区画線	リブ式(溶融式) 実線 20cm 黄	m		300		
除草工		式		1		
道路除草工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
道路除草(複合)	肩掛け式 (飛び石防護無し)	m2		5,000		
道路除草(複合)	肩掛け式 (飛び石防護有り)	m2		5,000		
処分費 (発生物処分)	雑草	t		15		
除雪工		式		1		
一般除雪工		式		1		
除雪トラック 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	7t級 4×4 フラ付	時間		30		
除雪トラック 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	7t級 4×4 フラ付	時間		10		
除雪トラック 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	7t級 4×4 フラ付	時間		30		
除雪トラック 【貸与】作業区分D 5:00～8:00	7t級 4×4 フラ付	時間		10		
除雪ローザ 【持込】作業区分A 8:00～17:00	ホイール式1.0m3	時間		20		
除雪ローザ 【持込】作業区分B 17:00～20:00	ホイール式1.0m3	時間		10		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
除雪トレーサ 【持込】作業区分C 20:00～5:00	ホイール式1.0m3	時間		20		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	ホイール・2ステージ型 1.5m級 130PS 簡易フ ラック付き	時間		10		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	ホイール・2ステージ型 1.5m級 130PS 簡易フ ラック付き	時間		10		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	ホイール・2ステージ型 1.5m級 130PS 簡易フ ラック付き	時間		10		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	ホイール・2ステージ型 1.3m級 80PS	時間		10		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	ホイール・2ステージ型 1.3m級 80PS	時間		10		
ロータリ除雪車 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	ホイール・2ステージ型 1.3m級 80PS	時間		10		
散水車 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	4500L フラック懸架機構付 フラック付	時間		20		
散水車 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	4500L フラック懸架機構付 フラック付	時間		10		
散水車 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	4500L フラック懸架機構付 フラック付	時間		20		
運搬除雪工		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
ダンプトラック 【持込】作業区分A 8:00～17:00	オンロード・デアイスル 4t積級	時間		40		
ダンプトラック 【持込】作業区分B 17:00～20:00	オンロード・デアイスル 4t積級	時間		20		
ダンプトラック 【持込】作業区分C 20:00～5:00	オンロード・デアイスル 4t積級	時間		40		
凍結防止工		式		1		
凍結防止剤散布車 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	湿潤式4t級、ホッパ容量3.4m3	時間		30		
凍結防止剤散布車 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	湿潤式4t級、ホッパ容量3.4m3	時間		20		
凍結防止剤散布車 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	湿潤式4t級、ホッパ容量3.4m3	時間		200		
凍結防止剤散布車 【貸与】作業区分D 5:00～8:00	湿潤式4t級、ホッパ容量3.4m3	時間		100		
塩化ナトリウム	1t詰パック、支給品	t		400		
歩道除雪工		式		1		
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	11PS	時間		20		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	11PS	時間		10		
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	11PS	時間		10		
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分A 8:00～17:00	16PS	時間		20		
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分B 17:00～20:00	16PS	時間		10		
クローラ・ハントガイト型除雪機 【貸与】作業区分C 20:00～5:00	16PS	時間		10		
雪道巡回工		式		1		
雪道通常巡回 【持込】作業区分A 8:00～17:00	ライトバン	回		20		
雪道通常巡回 【持込】作業区分C 20:00～5:00	ライトバン	回		20		
待機費		式		1		
情報連絡・作業管理 作業区分C	世話役	時間		10		
待機ハローター 作業区分C	除雪トラック	時間		10		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
待機ハローター 作業区分C	凍結防止剤散布車	時間		10		
応急処理工		式		1		
応急処理事業工 (昼間)		式		1		
応急作業	普通作業員	人		300		
応急作業	バックホ運転 (山積み0.45m3)	時間		40		
応急作業	ダンプトラック運転 (10t)	時間		40		
応急作業	ダンプトラック運転 (4t)	時間		60		
応急作業	ダンプトラック運転 (2t)	時間		60		
応急処理事業工 (夜間)		式		1		
応急作業	普通作業員	人		150		
応急作業	バックホ運転 (山積み0.45m3)	時間		20		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
応急作業	ダンプトラック運転 (10t)	時間		20		
応急作業	ダンプトラック運転 (4t)	時間		40		
応急作業	ダンプトラック運転 (2t)	時間		40		
仮設工		式		1		
交通管理工		式		1		
交通誘導警備員 (昼間)	A	式		1		
交通誘導警備員 (昼間)	B	式		1		
交通誘導警備員 (夜間)	A	式		1		
交通誘導警備員 (夜間)	B	式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事 (当 初)					
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量 (前回)	数量 (今回)	数量増減	摘要
共通仮設費		式		1		
運搬費		式		1		
建設機械運搬費		式		1		
共通仮設費 (率計上)		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
工事原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

工事数量総括表

工事名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事						(当 初)
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
工事費計 （令和8年度及び令和9年度）			式		1		

R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事

特記仕様書

令和8年2月

国土交通省関東地方整備局
甲府河川国道事務所

第1章 総則

第1条 適用

1. この特記仕様書は、関東地方整備局土木工事共通仕様書（令和7年度版）（以下「共通仕様書」という。）でいう特記仕様書で、本工事の施工に適用する。
2. この工事の施工にあたっての一般的事項は、共通仕様書によるものとする。
3. この特記仕様書に添付されていない別紙様式等については、以下URLよりダウンロードするものとする。

URL <https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/index00000015.html>

4. 本工事における「条件明示」については、別紙－1「明示項目および明示事項」に記載のとおりとする。

第2条 主任技術者等（契約書第10条）

本工事の主任技術者又は監理技術者は、受注者が提出した競争参加資格確認申請書に記述した配置予定の技術者でなければならない。

なお、下記に該当する場合で監督職員と協議のうえ認められた者以外は、原則、当該技術者を変更することはできないものとする。

- ①傷病により職務の遂行が出来ないと判断された場合
- ②死亡した場合
- ③退職した場合
- ④真にやむを得ない理由により転勤となる場合
- ⑤発注者の責により工期延期となる場合
- ⑥契約日から令和9年3月31日まで当該技術者が連続して従事した場合。ただし、変更予定技術者が、令和9年3月1日以前の日より本工事に従事している場合に限り変更を可能とする。

第3条 主任技術者等の専任期間

主任技術者又は監理技術者が技術研鑽のための研修、講習、試験等で短期間工事現場を離れる場合は、適切な施工ができる体制を確保したうえで、監督職員の承諾を得るものとする。

第4条 専任特例2号の場合の監理技術者の配置

1. 本工事において、建設業法第26条第3項第二号の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「専任特例2号の場合の監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下の（1）～（9）の要件を全て満たさなければならない。
 - （1）建設業法第26条第3項第二号による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。
 - （2）監理技術者補佐は、一級施工管理技士補又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建

設業法第27条の規定に基づく技術検定種目は、専任特例2号の場合の監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。

- (3) 監理技術者補佐は、直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。
 - (4) 同一の専任特例2号の場合の監理技術者が配置できる工事は、本工事を含め同時に2件までとする。なお、専任特例1号の場合の監理技術者又は主任技術者を活用した工事と兼務することは出来ない。
(ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるものについては、これら複数の工事を一の工事とみなす。)
 - (5) 専任特例2号の場合の監理技術者が兼務できる工事は山梨県内の工事でなければならない。
 - (6) 専任特例2号の場合の監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。
 - (7) 専任特例2号の場合の監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。
 - (8) 監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。
 - (9) 専任特例2号の場合の監理技術者が兼務できる工事は維持工事以外の工事でなければならない。(※「維持工事」とは通年維持工事等(24時間体制での応急処理工や緊急巡回等が必要な工事)をいう。)
2. 現場の安全管理体制について、平成7年4月21日付基発第267号の2「元方事業者による建設現場安全管理指針」において、「統括安全衛生責任者の選任を要するときには、その事業場に専属の者とする。」とされていることから、施工体制に留意すること。
3. 本工事の監理技術者が専任特例2号の場合の監理技術者として兼務し、本工事に監理技術者補佐を配置する事を予定している場合、以下の書類を提出すること。
- 1) 監理技術者補佐の資格を有する書類(一級施工管理技士等の国家資格者の合格証の写しなど)
 - 2) 監理技術者補佐の直接的かつ恒常的な雇用関係を証明する書類(監理技術者資格者証、市区町村が作成する住民税特別徴収税額通知書、健康保険・厚生年金被保険者標準報酬決定通知書、所属会社の雇用証明書又はこれらに準ずる資料(いずれも写し可))
 - 3) 専任特例2号の場合の監理技術者が兼務する工事の箇所、内容を示す書類(CORINSの写し)
4. 本工事の監理技術者が専任特例2号の場合の監理技術者として兼務し、本工事に監理技術者補佐を配置する事となった場合、第1項(6)～(8)について施工計画書へ記載し、提出すること。
5. 本工事において、専任特例2号の場合の監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は、コリンズ(CORINS)への登録・修正を適切に行うこと。

第5条 コリنز（CORINS）への登録

1. 工事カルテの作成、登録については、共通仕様書「1-1-1-7コリنز（CORINS）への登録」によるものとする。
2. 受注者は、工事受注後又は施工中において当該工事に係る悪質で不誠実な行為（一括下請負等）が発覚し、指名停止の措置を受けた場合は、登録済みの工事カルテの取り下げを行うものとする。
3. 技術者の従事期間は、工期をもって登録するものとする。（余裕期間を含まないことに留意するものとする。）

第6条 コリنز（CORINS）への位置情報の入力

共通仕様書1-1-1-7コリنز（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、位置情報については以下のとおりとし、工事場所および座標（緯度、経度）を記載するものとする。

なお、座標は、世界測地系（JGD2024）に準拠する。

【一般国道138号】

起点	山梨県富士吉田市上吉田	緯度35° 28' 30"	経度138° 47' 30"
終点	山梨県南都留郡山中湖村平野	緯度35° 23' 24"	経度138° 51' 46"

【一般国道139号】

起点	山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺	緯度35° 25' 59"	経度138° 35' 50"
終点	山梨県都留市桂町	緯度35° 31' 59"	経度138° 51' 59"

第7条 コリنز（CORINS）への工事概要の入力

共通仕様書1-1-1-7コリنز（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、工事概要について必須登録とし、記載例を参考にすること。

【記載例】

本工事は、富士吉田国道出張所管内の一般国道138号（L＝14.2km）、一般国道139号（L＝32.0km）における道路巡回及び舗装維持等の施工を行うほか、路面陥没や異常気象時などでの迅速な応急処理を実施する工事である。

主な工種は以下のとおり。

巡視・巡回工 1式、舗装工 1式、区画線工 1式、除草工 1式、除雪工 1式、
応急処理工 1式、仮設工 1式

第8条 施工体制台帳

工事成績優秀企業に認定され、認定有効期限内に、工事発注の契約を行った工事の監理技術者、主任技術者（工事成績優秀企業に認定された下請負を含む）は、工事成績優秀企業認定マークの使用や金色帯線（黄色もしくは橙色の帯線でも可）を名札上部に印刷する

ことが出来るものとする。

監理（主任）技術者	
写真 2cm×3cm 程 度	氏名 ○○ ○○ 工事名 ○○改良工事 工期 自○○年○○月○○日 至○○年○○月○○日
	会社 ◇◇建設株式会社 印

注意 1）用紙の大きさは名刺サイズ以上とする。

注意 2）所属会社の写真とする。

第9条 調査・試験に対する協力（低入札価格調査制度調査対象工事について）

1. 契約担当官等が工事の中間において技術検査の必要を認めた場合は、速やかに監督職員の指示に従い、検査を受けなければならない。なお、検査は工事請負契約書及び共通仕様書に適用する条項に準じて行うものとする。
2. 予算決算及び会計令第85条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、受注者は下記の調査に協力しなければならない。
 - （1）受注者は、下請負者の協力を得て間接工事費等諸経費動向調査票（営繕工事においては共通費実態調査票）の作成を行い、工事完了後、速やかに発注者に提出するものとする。
 - （2）受注者は、提出された間接工事費等諸経費動向調査票（営繕工事においては共通費実態調査票）の費用の内訳についてヒアリング調査に応じるものとする。この場合において、受注者は下請負者についてもヒアリングに参加させるものとする。
 - （3）工事コスト調査（調査結果でも可）に係る資料は、下記のとおりとし、関東地方整備局又は甲府河川国道事務所のホームページにより公表する。
 - （4）低入札価格調査と工事コスト調査の結果に大きな乖離がある場合、又は、工事コスト調査資料の提出が無い場合には、工事成績評点を減点する場合がある。なお、低入札価格調査対象工事については、工事コスト調査終了後に工事成績評点を通知する。

公表資料は以下のとおり。

別紙様式－0－1～0－10

資料名	内訳
低価格理由とその詳細	当該工事が低価格で施工可能となる理由を示した資料
比較表－1	積算内訳書の発注者と元請における当初と実績の比較表
比較表－2	積算内訳書に対する明細書の発注者と元請における当初と実績の比較表
比較表－3	元請の手持ち資材の当初と実績の比較表
比較表－4	元請の資材購入先一覧の当初と実績の比較表
比較表－5	手持ち機械の当初と実績の比較表
比較表－6	労務者確保計画の当初と実績の比較表

比較表－ 7	工種別労務者配置計画の当初と実績の比較表
比較表－ 8	建設副産物の搬出の当初と実績の比較表
諸経費動向調査(工事費)	元請、下請の工事費内訳

第10条 低入札契約におけるモニターカメラの設置

本工事は、予算決算及び会計令第85条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、工事の監督補助としてモニターカメラの設置を行う対象工事とする。

なお、モニターカメラの設置費用については、発注者の負担によるものとする。

第11条 不可視部分の出来形管理について

予算決算及び会計令第85条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、以下に示す工種の不可視部分について、ビデオカメラを用いた出来形管理を行うこととし、撮影した映像については監督職員に提出するものとする。

- ① 切削オーバーレイ工
- ② 上層路盤、基層、表層

第12条 不具合等発生時の措置

受注者は、工事施工途中に工事目的物や工事材料等の不具合等が発生した場合、又は公益通報者等から当該工事に関する情報が寄せられた場合には、その内容を監督職員に直ちに通知しなければならない。

第13条 工事書類の作成

1. 工事書類の作成に当たっては、別に定める「土木工事電子書類作成マニュアル（令和7年3月）」に基づき実施するものとする。
2. 工事書類の作成に当たっては、別に定める「土木工事電子書類スリム化ガイド（令和7年3月）」を参考に書類の電子化、受発注者間での作成書類の役割分担の明確化、書類の削減等に留意すること。
3. 「工事関係電子書類一覧表」（別紙様式－6）により、工事着手前に「作成書類の役割分担」、「作成書類の位置付け」に関して「協議」するものとする。
また、「協議」の内容を変更する場合は、改めて、受発注者で協議を行うものとする。
4. 電子により提出、提示した書類については、検査時その他の場合においても紙での提示、提出は行わないものとする。

第14条 設計図書の照査

発注者は、設計図書の照査の範囲を超える資料の作成については、監督職員の指示とし、その作成費用は、設計変更の対象とする。なお、設計変更の対象については、「工事請負契約における設計変更ガイドライン（総合版）：令和7年3月」によるものとする。

第15条 情報共有システムの活用

1. 本工事は、監督職員及び受注者の間の情報を電子的に交換・共有することにより業務の効率化を図る情報共有システムの活用対象工事である。なお、活用にあたっては「土木工事・業務の情報共有システム活用ガイドライン」（令和7年3月版）に基づき実施すること。
2. 受注者は、本工事で使用する情報共有システムを選定し、使用する情報共有システムは次の要件を満たすものとする。
 - ・ 工事施工中における受発注者間の情報共有システム機能要件（Rev5.7）
令和7年3月版（国土技術政策総合研究所）
3. 監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は、受注者が行うものとする。また、利用開始日、必要なユーザーID数、ディスク容量等の仕様やワークフロー機能の対象者等については、監督職員と協議の上決定する。
4. 受注者は、サービス提供者と次の内容を含めた契約を締結するものとする。
 - ① 情報共有システムに関する障害を適正に処理、解決できる体制を整える旨
 - ② サービス提供者が善良なる管理者の注意をもってしても防御し得ない不正アクセス等により、情報漏洩、データ破壊、システム停止等があった場合、速やかに受注者に連絡を行い適正な処置を行う旨
 - ③ ②の場合において、サービス提供者に重大な管理瑕疵があると監督職員若しくは受注者が判断した場合、又は復旧若しくは処理対応が不適切な場合には、受注者はサービス提供者と協議の上情報共有システムの利用を停止することができる旨
5. 受注者は、監督職員等から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためのアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。

第16条 設計審査会の設置

本工事は、発注者と受注者が一堂に会して、現場着手前（準備期間内）に工事工程クリティカルパスの共有及び工事工程の照合（クロスチェック）を実施し、併せて協議資料作成等の受発注者間の役割分担を明確にする場、また、設計変更手続きの透明性と公正性の向上及び迅速化のため、設計変更の妥当性の審議及び設計変更等に伴う工事中止等の判断等を行う場として開催する「設計審査会」（以下、「審査会」という。）の設置対象工事である。

「審査会」の運用にあたっては、「設計審査会設置運用方針」（<https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html>）によるものとする。

第17条 工事環境の改善

本工事の実施にあたっては、工事環境の改善に取り組むウィークリースタンスを考慮するものとする。ウィークリースタンスの実施にあたっては、関東地方整備局ホームページ（<https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html>）に掲載している工事環境改善実施要領に基づき、監督職員と確認・調整した内容について取り組むものとする。

(維持工事等緊急を要する場合を除く)

第18条 ワンデーレスポンス

1. この工事はワンデーレスポンス実施対象工事である。
(維持工事等緊急を要する場合を除く)
 - ・「ワンデーレスポンス」とは
受注者からの質問、協議等への回答は、基本的に「その日のうち」に指示、通知等行うよう対応する。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議の上、回答期限を設けるなど何らかの回答を「その日のうち」に通知することである。
2. 受注者は計画工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督職員と協議をおこなうこと。
3. 受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。
4. ワンデーレスポンスの実施にあたっては、関東地方整備局ホームページ (<https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html>) に掲載しているワンデーレスポンス実施の手引き(令和5年12月)に基づき、取り組むものとする。
5. 効果・課題等を把握するためアンケート等のフォローアップ調査を実施する場合があるため、協力すること。

第19条 契約内容の変更手続きについて

本工事における契約内容の変更は、以下によるものとする。

- ① 本工事における設計変更や契約変更は書面に基づき行うことを徹底し、指示書・協議書があるもののみを契約変更の対象とする。
- ② 受注者は、工事期間中及び工事完成後において、監督職員から契約図書の規定に違反する等の不適切な指示を受けたと思料されるときは、当該監督職員を経由せずに、事務所長へ直接又は契約担当課長経由で書面により、その旨を報告することができる。

第20条 設計図書の変更

設計変更等については、契約書第18条から第25条及び共通仕様書1-1-1-16から1-1-1-18に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「工事請負契約における設計変更ガイドライン(総合版):令和7年3月」によることとする。

第21条 スライド条項

工事請負契約書第26条(スライド条項)については、物価水準の変動により請負代金が不適当となったと認められた時に、相手方に請負代金の変更を請求することができる条項となっている。

単品スライドについては、鋼材類・燃料油の他、コンクリート類、購入土などの主要工

事材料も対象となるので、物価水準の変動により請負代金が不適当となった場合には、相手方に対して請負代金額の変更を請求することができる。

第22条 支給材料

支給材料は別紙－3－1のとおりとする。

なお、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第23条 貸与物件

貸与機械は別紙－3－2「貸付機械明細書」のとおりとし、無償貸付とするが作業で使用する都度貸付けるものとする。その取扱については、「請負工事用建設機械無償貸付仕様書」によるものとする。なお、これによりがたい場合は、監督職員と協議するものとする。

1. 除雪貸付機械に使用するタイヤ、タイヤチェーン、カッティング等については監督職員が摩耗状況を判断して引き渡すが、シャービン等軽微な消耗品については受注者負担とする。
2. 受注者は、貸付機械が次項に該当したときは、遅滞なく監督職員に連絡してその指示を受けるものとする。
 - (1) 故障その他により正常な運転ができない恐れのあるとき。
 - (2) 事故発生時
 - (3) タコグラフまたは、タスクメータ等が正常に作動しないとき。

第24条 再生資材の活用

受注者は下記の資材の使用に際し、再生資材を利用するものとする。

資材名	規格	備考
再生加熱アスファルト混合物	As量4.0%安定再生	舗装打換え工
〃	As量5.0%粗粒再生	舗装打換え工、 切削オーバーレイ工
〃	As量6.5%細粒再生	アスファルト舗装補修工

なお、使用に際し「舗装再生便覧」等を遵守するものとする。

第25条 公共建設工事における分別解体等・再資源化等及び再生資源活用工事実施要領 (土木)

1. 本工事は建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（（平成12年法律第104号最終改正令和7年6月1日法律第68号）。以下「建設リサイクル法」という）に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「8解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示し

た以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。ただし工事発注後に明らかになった事情により予定した条件により難しい場合は監督職員と協議するものとする。

(1) 分別解体等の方法

工程 ご と の 作 業 内 容 及 び 解 体 方 法	工程	作業内容	分別解体等の方法
	① 仮設	仮設工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	② 土工	土工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	③ 基礎	基礎工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	④ 本体構造	本体構造の工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	⑤ 本体付属品	本体付属品の工事 □有 ■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	⑥ その他 (舗装打換え工、 切削オーバーレイ工)	その他の工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用

(2) 再資源化等をする施設の名称及び所在地

特定建設資材廃棄物の種類	施設の名称	所在地
アスファルト殻（切削材）	(株)土手影建設 富士河口湖サイクル プラント	山梨県南都留郡富士河口湖町 小立5065
アスファルト殻（掘削材）	(株)土手影建設 富士河口湖サイクル プラント	山梨県南都留郡富士河口湖町 小立5065

上記（2）については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、受注者の提示する施設と異なる場合でも設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項については、監督職員と協議の上、契約変更の対象とすることができる。

(3) 受入時間

(株)土手影建設 富士河口湖サイクルプラント：8時00分～17時00分

2. 受注者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づき、以下の事項を書面に記載し、監督職員に報告することとする。なお、書面は「建設リサイクルガイドライン（平成14年5月）」に定めた様式1〔再生資源利用計画書（実施書）〕及び様式2〔再生資源利用促進計画書（実施書）〕を兼ねるものとする。

- ・再資源化等が完了した年月日
- ・再資源化等をした施設の名称及び所在地

- ・再資源化等に要した費用
3. 工事発注後に明らかなった事情により予定していた条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

第26条 建設リサイクル法第11条通知の徹底

受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号）第11条に基づく、都道府県知事に対する通知を行った旨の書面を監督職員より受領した後に、工事着手（建設リサイクル法第10条第1項に規定する工事着手をいう。）するものとする。なお、これによりがたい場合は監督職員と協議の上決定するものとする。

第27条 工事完成図

本工事は、道路工事完成図等作成要領（第2版）（国土技術政策総合研究所資料、平成20年12月）に基づく電子納品の対象工事である。

http://www.nilim-cdrw.jp/dl_std.html

第28条 工事完成図の作成、納品

完成図等の作成について

受注者は、「道路工事完成図等作成要領（国土技術政策総合研究所資料、平成20年12月）」に基づいて作成した電子データを、電子媒体で提出しなければならない。

受注者は、本要領に基づき、国土技術政策総合研究所がホームページ上に無償で公開している本要領に対応したチェックプログラムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウィルス対策を実施した上で出力資料を含む（別紙等での提出も可能）電子データを提出しなければならない。

提出資料

【電子データ（CD入り）】

- ・完成平面図SXF データ（.P21）
- ・完成縦断面図SXF データ（.P21）
- ・完成平面図：属性XML データ（拡張子 .saf）

【出力資料（道路工事完成図等作成要領p73 参照）】

- ・チェック結果記録
- ・完成平面図
- ・完成縦断面図
- ・「完成平面図」チェック結果記録
- ・道路工事完成図等チェックプログラム結果ログ

なお、作成に要する費用について当初は計上していないため、設計変更の対象とする。

第29条 施工管理

1. 本工事の施工管理は、関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値（令和7年度版）によるものとする。なお、この管理基準により難しい場合及び基準、規格値が定められていない工種については、監督職員と協議の上、施工管理を行うものとする。
2. 本工事の写真管理は、関東地方整備局土木工事写真管理基準（令和7年度版）によるものとする。なお、「撮影項目」、「撮影頻度」が工事内容に合致しない場合は、監督職員の指示により追加、削減するものとする。
3. 本工事の施工管理における適用工種毎の基準類は、ICT活用工事実施要領（令和7年度版）の関連要領等一覧（URL「https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html」）によるものとする。

第30条 デジタル工事写真の小黑板情報電子化について

デジタル工事写真の小黑板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黑板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

工事では、以下の1. から4. の全てを実施することとする。

1. 対象機器の導入

受注者は、デジタル工事写真の小黑板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等（以降、「使用機器」と称する）については、関東地方整備局土木工事写真管理基準（令和7年度版）（以下、写真管理基準）「2-2撮影方法」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト（CRYPTREC暗号リスト）」（URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」）に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に、本工事での使用機器について提示するものとする。

なお、使用機器の事例を以下に示す。

【使用機器の事例】

デジタル工事写真の小黑板情報電子化対応ソフトウェア、（一社）施工管理ソフトウェア産業協会、〈<https://www.jcomsia.org/kokuban>〉。

※ここでは使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない

2. デジタル工事写真における小黑板情報の電子的記入

受注者は、同条1. の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、写真管理基準「2-2撮影方法」による。

ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

3. 小黑板情報の電子的記入の取扱い

本工事の工事写真の取扱いは、写真管理基準及びデジタル写真管理情報基準（以下、デ

ジタル写真管理情報基準)に準ずるが、同条2.に示す小黑板情報の電子的記入については、写真管理基準「2-5 写真編集等」及びデジタル写真管理情報基準「6. 写真編集等」で規定されている写真編集には該当しない。

4. 小黑板情報の電子的記入を行った写真の納品

受注者は、同条2.に示す小黑板情報の電子的記入を行った写真(以下、「小黑板情報電子化写真」と称する。)を、工事完成時に監督職員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者は改ざん検知機能(信憑性チェックツール)を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。

また、下記のチェックツールを使用して信憑性確認を行い、結果を出力したものでよい。

【チェックツールの事例】

信憑性チェックツール(一社)施工管理ソフトウェア産業協会

<<https://www.jcomsia.org/kokuban>>.

※ここでは使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない

なお、デジタル工事写真の小黑板情報電子化を実施しない工事写真がある場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得ること。

第31条 ICT活用工事(舗装工(修繕工))について[施工者希望Ⅱ型]

1. ICT活用工事

本工事は、国土交通省が提唱するi-Constructionに基づき、ICT施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するICT活用工事の対象工事である。

2. 定義

(1) i-Constructionとは、ICT施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてICT施工技術を活用した工事(ICT活用工事)を実施するものとする。

(2) ICT活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、ICTを活用する工事である。また、以下の①～⑤の段階でICT施工技術を活用することをICT活用工事という。対象は、切削オーバーレイ工事または路面切削工事とする。

① 3次元起工測量

② 3次元設計データ作成

③ ICT建設機械による施工

④ 3次元出来形管理等の施工管理

⑤ 3次元データの納品

3. 受注者は、ICT施工技術の活用を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に以下4～8によりICT施工技術の活用を行うことができる。
4. 原則、本工事においては上記①～⑤の段階でICT施工技術を活用することとし舗装工（修繕工）について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び対象範囲を監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。
5. ICT施工技術を用い、以下の施工を実施する。

① 3次元起工測量

受注者は、交通規制を削減し、以下1)～3)から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。起工測量は、施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。

- 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 3) TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量

② 3次元設計データ等作成

受注者は、5. ①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、施工指示に用いる切削計画を作成する。また、ICT建設機械による施工、及び3次元出来形管理を行う場合は3次元設計データを作成する。

③ ICT建設機械による施工

5. ②で作成した3次元設計データを用い、以下1) 2)に示すICT建設機械により施工を実施するものとし、切削指示値等に積極的に3次元設計データ等を活用するものとする。

なお、ICT建設機械の調達が困難な場合は、監督職員と協議して従来型建設機械による施工を実施してもICT活用工事とする。

- 1) 3次元MCまたは3次元MG建設機械
- 2) 3次元位置を用いた施工管理システムを搭載した建設機械

建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術、または、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する施工管理の機能を有する技術を用いて、路面切削を実施する。

なお、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに切削深さの計測・記録する方法としては、外部計測機による切削装置の計測の他切削装置に表示される指示値を取得する方法などがある。

④ 3次元出来形管理等の施工管理

5. ③による工事の施工管理において、以下のとおり出来形管理を行うものとする。

なお、監督職員と協議のうえ、従来型建設機械による施工を実施した場合は従来手法による施工管理を実施する。

(1) 出来形管理

3次元MCまたは3次元MG建設機械を使用した場合の出来形管理にあたっては、管理断面及び変化点の計測による出来形管理とし、以下1) 2) から選択（複数以上可）して実施するものとする。

1) TS等光波方式を用いた出来形管理

2) 地上写真測量を用いた出来形管理

3次元位置を用いた施工管理システムを使用した場合の出来形管理にあたっては、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する施工管理システムから得られる施工履歴データにより以下3) により実施するものとする。

3) 施工履歴データを用いた出来形管理

⑤ 3次元データの納品

5. ①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。

6. 上記5. ①～④の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。

また、ICT施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。

7. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。

8. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。

第32条 ICT活用工事における適用（用語の定義について）

1. 図面

図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という。）等をいう。

なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。

第33条 ICT活用工事の費用について

1. 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT施工技術を活用する項目については、以下の積算要領に基づき各段階を設計変更の対象とする。

・ ICT活用工事（舗装工（修繕工））積算要領

(1) 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。

また、「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれているため、費用の計上はしないものとする。

2. 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。

第34条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査

ICT活用施工を行った、全てのICT活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。

施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。

調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。

第35条 現場環境改善（快適トイレの設置）

1. 内容

受注者は快適トイレの設置について、監督職員と協議することとする。

快適トイレを設置する場合は、受注者は現場に以下の（1）～（11）の仕様を満たす快適トイレを設置することを原則とする。

（12）～（17）については、満たしていればより快適に使用出来ると思われる項目であり、必須ではない。

【快適トイレに求める機能】

- （1）洋式（洋風）便器
- （2）水洗及び簡易水洗機能（し尿処理装置付き含む）
- （3）臭い逆流防止機能
- （4）容易に開かない施錠機能
- （5）照明設備
- （6）衣類掛け等のフック、又は荷物の置ける棚等（耐荷重を5kg以上とする）

【付属品として備えるもの】

- （7）現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示
- （8）周囲からトイレの入口が直接見えない工夫
- （9）サニタリーボックス（女性用トイレに必ず設置）
- （10）鏡と手洗器

(11) 便座除菌クリーナー等の衛生用品

【推奨する仕様、付属品】

(12) 室内寸法900mm×900mm 以上（面積ではない）

(13) 擬音装置（機能を含む）

(14) 着替え台

(15) 臭気対策機能の多重化

(16) 室内温度の調整が可能な設備

(17) 小物置き場（トイレトペーパー予備置き場等）

2. 快適トイレに要する費用

快適トイレに要する費用については、当初は計上していない。

受注者は、上記1の内容を満たす快適トイレであることを示す書類を添付し、規格・基数等の詳細について監督職員と協議することとし、精算変更時において、見積書を提出するものとする。【快適トイレに求める機能】（1）～（6）及び【付属品として備えるもの】（7）～（11）の費用については、従来品相当を差し引いた後、51,000 円／基・月を上限に設計変更の対象とする。

なお、設計変更数量の上限は、男女別で各1基ずつ2基／工事までとする。また運搬・設置費は共通仮設費（率）に含むものとし、2基／工事より多く設置する場合や積算上限額を超える費用については、監督職員と協議するものとする。

3. その他

快適トイレを設置しない場合は、監督職員と協議の上、本条項の対象外とする。

第36条 工事中の安全確保

1. 工事の施工にあたっては、関東地方整備局長が定める「重点的安全対策」について留意し、工事事故の防止を図らなければならない。

なお、令和7年度における重点的安全対策項目は以下の7項目である。また、令和8年度、令和9年度における重点的安全対策項目は監督職員より通知する。

- I. 架空線等上空施設の損傷事故防止
- II. 建設機械等の稼働に関連した人身事故防止
- III. 資機材等の下敷きによる人身事故防止
- IV. 足場・法面等からの墜落事故防止
- V. 地下埋設物の損傷事故防止
- VI. 第三者の負傷・第三者車両等に対する損害
- VII. 事故防止

2. 受注者は、工事に従事する就業制限業務及び作業主任者を選任する業務における資格者のうち、資格取得後一定期間経過した資格者に対し、次に掲げる再教育の受講が推進されるよう努めるものとする。

- ① 労働安全衛生法第19条の2に基づく足場組立等作業主任者等に対する能力向上教育
- ② 労働安全衛生法第60条の2に基づく車両系建設機械運転従事者、移動式クレーン運転士、玉掛業務従事者等に対する危険有害業務従事者教育

- ③ 厚生労働省通達に基づくドラグ・ショベル運転業務従事者に対する危険再認識教育
3. 工事の施工にあたっては、工事等の時期、工事等の方法の概要及び工事等を行なう場合における道路交通に対する措置について「道路工事保安施設設置基準（案）（令和6年2月）」に基づき監督職員へ確認を行うものとする。
4. 工事中看板、工事情報看板及び工事説明看板の記載内容及び設置箇所については、監督職員の承諾を得るものとする。
5. 工事期間中は、夜間における安全確保のため保安要員を巡回させ、道路灯、バリケード等保安施設の保安点検を行うものとする。
6. 工事期間中に配置する交通誘導警備員は、以下のとおり計上するものとする。ただし、交通管理者等との協議条件など社会的要件、現地精査に基づき配置人員の変更が必要になった場合は、監督職員と協議するものとする。

【令和8年度】

工種	作業区分	交通誘導警備員	備考
全工種	昼間作業	100人（うち有資格誘導員 50人）	交代要員含む
全工種	夜間作業	60人（うち有資格誘導員 30人）	交代要員含む
合計		160人（うち有資格誘導員 80人）	

【令和9年度】

工種	作業区分	交通誘導警備員	備考
全工種	昼間作業	100人（うち有資格誘導員 50人）	交代要員含む
全工種	夜間作業	60人（うち有資格誘導員 30人）	交代要員含む
合計		160人（うち有資格誘導員 80人）	

7. UAV等を使用する際の安全面への配慮について
- 受注者は、起工測量等においてUAV等を使用する場合、安全面への配慮として下記URLに基づいてUAV等を使用すること。

URL <https://www.gsi.go.jp/KOUKYOU/sokuryosidou41042.html>

第37条 熱中症対策に資する現場管理費の補正

1. 本工事は、夏季における真夏日などの気候状況を考慮し、工事現場の熱中症対策に掛かる経費に関して「熱中症対策に資する現場管理費の補正」を行う試行工事である。
2. 真夏日の考え方は下記のとおりである。

(1) 真夏日の定義

日最高気温が30℃以上の日を指す。

ただし、夜間工事の場合は作業時間帯の最高気温が30℃以上の場合とする。

(2) 試行にあたっての真夏日の計上の考え方

下記①～③のいずれかに該当する場合、真夏日として計上する。

①環境省が公表している暑さ指数（WBGT）が日最高25℃以上の場合。

施工現場から最寄りの環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）が25℃以上となる日を、真夏日とみなす。

②気象庁が公表している地上気象観測所の日最高気温が30℃以上の場合。

施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温が30℃以上の日を、真夏日とする。

③夜間工事については、作業時間帯の最高気温が30℃以上の場合。

施工現場から最寄りの観測地点における作業時間帯の最高気温が30℃以上、又はWBGTが25℃以上の場合、真夏日とする。なお、休工日においては、上記に該当した場合でも真夏日としては計上しない。

上記①～③によりがたい場合は、監督職員と協議すること。

(3) 工期

工事着手から工事完成日までの期間を指す。なお、年末年始休暇6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。

(4) 基準日

受発注者協議により、「基準日」を定めるものとする。「基準日」は工事着手日を基本とする。

当該「基準日」より工期末までの期間のうち、真夏日にあたる日数を算出する。

なお、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止期間、現場休工日は含まないものとする。

(5) 真夏日率

以下の式により算出された率をいう。

$$\text{真夏日率} = \text{基準日から工期末までの真夏日} \div \text{工期}$$

(6) 現場管理費の補正

現場管理費の補正は、工期中の日最高気温の状況に応じて補正値を算出し、現場管理費率に加算する。なお、補正は変更契約において行うものとする。

$$\text{補正率 (\%)} = \text{真夏日率} \times \text{補正係数※}$$

※ 真夏日補正係数：1.2

第38条 安全管理推進技術者等認定について

1. 概要

関東地方整備局（港湾・空港部・営繕部関係を除く）が発注した工事（以下、「直轄工事」という）において、無事故で完成させた技術者に対して、「安全管理推進技術者」（以下、「認定技術者」という）として認定する。

2. 認定条件

対象とする技術者は、以下の条件によって認定する。

- ・直轄工事において、無事故にて完成させた「安全管理担当者」として、施工期間中、全ての工事（準備工を除く）に従事した者。なお、「安全管理担当者」とは、施工体制上、受注者が配置する「統括安全衛生責任者」、「元方安全衛生管理者」、「ずい道等救護技術管理者」、「店社安全衛生管理者」、「工事現場責任者」として安全管理に従事した者で、現場代理人または、主任（監理）技術者が兼務した場合も認定するものとする。

- ・直轄工事にて、認定技術者として過去5回認定された者については、「優秀安全管理推進技術者」（以下、「優秀認定技術者」という）として認定する。

3. 認定技術者の認証

- ・認定技術者及び優秀認定技術者に認定された者については、「安全管理推進技術者認定ロゴマーク」（以下、「認定ロゴマーク」という）を「企業の名刺」、「ヘルメット貼付」等に使用（印刷、シール）することができる。
- ・紛失等による認定書の再発行は行わない。
- ・「認定ロゴマーク」については、当該地方整備局管内で行う直轄工事のみに使用でき、それに要する費用は、当該企業が負担するものとする。

4. 認定技術者の認証期間

認定技術者へ授与した認証については、その使用期間に制限を設けないものとする。

5. 不適切事項への措置による認証の取り扱い

認定技術者が関係する工事にて、粗雑工事等の発覚より、関東地方整備局から措置（指名停止、文書注意、口頭注意）を受けた場合であっても、過去の認証の取り消しは行わない。ただし、工事完成后、安全管理に関して不適切な事象が発覚した場合、または、不正による認定取得が確認された場合については、認定を取り消す。

第39条 交通誘導警備員の資格

交通誘導警備員については、資格者（警備業法第23条に規定する都・県公安委員会の行う1級又は2級検定に合格した者）1名以上を充て、他は経験者1年以上の者とする。

なお、これによりがたい場合は、監督職員と協議するものとする。

第40条 路上工事の縮減等

受注者は、路上工事による交通への影響の緩和を図るため、施工方法・規制時間帯・施工日数の短縮等の検討を行い、監督職員に提出するとともに工事完了時に実施結果を提出するものとし、路上工事の縮減等に努めるものとする。

第41条 交通規制日数の報告

現道上での（改築・維持修繕）工事等により交通規制を実施した場合には、月毎に実交通規制日数を監督職員へ提出するものとする。

第42条 環境対策

受注者は、本工事の資材、建設機械の使用にあたっては、必要とされる強度や耐久性、機能の確保等に留意しつつ、環境物品等の調達の推進に関する基本方針に定められた国土交通省の特定調達品目（以下、「特定調達品目」という）の使用を積極的に推進するものとする。設計図書に定めがあるものについて、特定調達品目への変更が可能である場合は、監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。ただし、東日本大震災の影響により、特定調達品目の使用が困難な場合には、監督職員と協議するものとする。

受注者は、特定調達品目の調達実績の集計を行い、工事完了後（工期が令和9年度以降に及ぶものは、監督職員の指示する日まで）に電子データにより監督職員に提出するものとする。集計の方法については、監督職員より指示する。

第43条 環境対策（建設機械の使用）

受注者は、本工事において「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」（昭和62年3月30日建設省経機第58号）に基づき、低騒音型建設機械の使用原則を図られた場合は、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」に基づき指定された低騒音型建設機械を使用するものとする。

第44条 舗装版切断時に発生する濁水の適正な処理

舗装版切断作業に伴い、切断機械から発生する排水については、排水吸引機能を有する切断機械等により回収するものとする。回収された排水については、地方公共団体の取扱規則等に基づき適正に処理しなければならない。

なお、舗装版切断時に発生する濁水の運搬・処理費用については当初見込んでいないが、建設資材廃棄物に該当するため、適正な処理方法について選定し監督職員と協議すること。

なお、濁水の運搬・処理費用等、必要と認められる経費についても契約変更の対象とする。

「適正に処理」とは、「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に基づき、産業廃棄物の排出事業者（請負業者）が産業廃棄物の処理を委託する際、適正処理のために必要な廃棄物情報（成分性状等）を処理業者に提供することが必要である。

なお、受注者は、排水の処理に係る産業廃棄物管理票（マニフェスト）について、監督職員から請求があった場合は提示しなければならない。

第45条 交通安全管理（工事現場管理）

受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守するものとする。

1. 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
2. さし柵装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
3. 過積載車輛、さし柵装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等過積載を助長することのないようにすること。
4. 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行った場合、さし柵装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
5. 建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
6. 以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。

第46条 交通安全管理（特殊車両通行許可関係図書の確認及び提出）

共通仕様書1-1-1-36交通安全管理第14項における道路法第47条の2に基づ

く通行許可の確認は、下記について実施するものとする。また監督職員からの求めがあった場合には確認結果等を提示しなければならない。

①当該車両に関する特殊車両通行許可証

②現場到着地点及び現場出発時における荷姿（荷姿全景、ナンバープレート等通行許可証と照合可能な写真を撮影しておくこと）

③車両通行記録計（タコグラフ）（夜間走行条件の場合のみ）

なお、当該車両の特殊車両通行許可書については、当該経路に関する部分の写しを、共通仕様書 1-1-1-39 官公庁等への手続等第 3 項に基づき、監督職員へ提示するものとする。

第 47 条 通行許可等

1. 受注者は、建設機械、資材の運搬にあたり、道路法第 47 条第 1 項、車両制限令第 3 条における一般的制限値を超える車両を通行させようとする場合は、運搬資機材毎に運搬計画（車種区分、車両番号等、車両諸元及び積載重量、資材の積載限度数量、通行経路、許可証等の有効期限等の確認方法と確認頻度）を作成し、施工計画書に記載しなければならない。
2. 受注者は、運搬計画どおりに運行していることを確認しなければならない。また、確認を行った資料については、整理保管するとともに、監督職員または検査職員の要求があった場合は速やかに提示しなければならない。

第 48 条 貸付建設機械への受注者名の標示について

発注者所有の建設機械を貸与されて行う作業（工事）及び業務の実施にあたっては、受注者名を貸与建設機械に標示するものとする。

なお、標示方法等の詳細については、監督職員と協議するものとする。

第 49 条 現場環境改善

主に現場の施設や設備に対する熱中症対策・防寒対策については、工事契約後、監督職員と協議するものとする。

第 50 条 工期

工期は、令和 8 年 4 月 1 日から令和 10 年 3 月 31 日までとする。

第 51 条 工事工程クリティカルパスの共有

受注者は、現場着手前（準備期間内）に設計図書等を踏まえた工事工程表（クリティカルパスを含む）を作成し、監督職員と共有すること。工程に影響する事項がある場合は、その事項の処理対応者（「発注者」又は「受注者」）を明確にすること。

施工中に工事工程表のクリティカルパスに変更が生じた場合は、適切に受発注者間で共有することとし、工程の変更理由が以下の①～⑤に示すような受注者の責によらない場合は、工期の延長が可能となる場合があるので協議すること。

- ① 受発注者間で協議した工事工程の条件に変更が生じた場合
- ② 著しい悪天候や気象状況より「天候等による作業不能日」が工程（官積算）で見込んでいる日数から著しく乖離し、かつ、作業を休止せざるを得なかった場合
- ③ 工事中止や工事一部中止により全体工程に影響が生じた場合
- ④ 資機材や労働需要のひっ迫により、全体工程に影響が生じた場合
- ⑤ その他特別な事情により全体工程に影響が生じた場合

第52条 週休2日の対応

1. 本工事は、技術者及び技能労働者が交替しながら休日確保に取り組む「週休2日交替制適用工事」の試行工事である。

受注者は、工事契約後、完全週休2日交替制の取組を希望するか判断の上、発注者に協議するものとし、希望しない場合は月単位の週休2日交替制に取組むものとする。

2. 週休2日の考え方は下記のとおりである。

1) 週休2日

①完全週休2日交替制

対象期間内の全ての週において、現場に従事した技術者及び技能労働者の平均休日数の割合（以下「休日率」という。）が、28.5%（2日／7日）以上となる休日確保を行ったと認められる状態をいう。

②月単位の週休2日交替制

対象期間内の全ての月において、現場に従事した技術者及び技能労働者の休日率が、28.5%（8日／28日）以上となる休日確保を行ったと認められる状態をいう。

2) 対象期間

工事着手日から工事完成日までの期間をいう。なお、年末年始休暇6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など）は含まない。

※発注者があらかじめ対象外としている内容とは、「災害対応、道路維持等の発注者による緊急・応急的な指示」の場合である。

※年末年始休暇6日間、夏季休暇3日間については、対象期間内に現場に従事した技術者及び技能労働者の休日日数が確保されていること。

また、工事着手後、受注者の責によらず週休2日の実施が困難な期間が生じる場合は、受発注者間で協議して週休2日の対象外とする作業と期間を決定するとともに、変更契約時の設計図書に対象外とする作業と期間を明示する。ただし、対象外とする期間は災害対応等のやむを得ない期間に限定すること。

3. 天候等を天候等による作業環境が厳しい時期を避けることを目的に、1年単位の変形労働時間制を活用する場合は、1週40時間または1日8時間を超える労働時間を設定した月は、週休2日工事の対象期間外とする。また1年単位の変形労働時間制の活用について施工計画書に反映し、労働基準監督署へ提出した下記の資料を提出すること。

- ・ 1年単位の変形労働時間制を活用する労働者とその使用者が締結した労使協定

- ・変更した就業規則

4. 技術者及び技能労働者の休日の確認方法等

受注者は、技術者及び技能労働者の休日を確保するための施工体制の内容や休日確保状況を証明する方法を具体的に明示した施工計画書を提出のうえ、工事着手前に監督職員と協議するものとする。

5. 施工計画書に基づき、受発注者間で休日確保状況を確認するものとし、受注者側の週休2日の取組状況が十分でない場合は、受発注者双方において要因を分析し、週休2日が確保できるよう改善に取り組むものとする。
6. 工事完了後、週休2日の取得結果が確認できる「取得報告書」を作成し、監督職員に提出するものとする。
7. アンケート調査を実施する場合はこれに協力すること。
8. 明らかに受注者側に月単位の週休2日に取り組む姿勢が見られなかった場合については、工事成績評定から内容に応じて、点数を減ずる措置を行うものとする。
9. 週休2日に掛かる費用については、当初予定価格から完全週休2日交替制を達成した場合の補正係数を労務費、市場単価、土木工事標準単価、現場管理費率に乗じているが、休日率の達成状況を確認後、完全週休2日交替制が未達成の場合は、月単位の週休2日交替制の補正係数に変更する。月単位の週休2日交替制が未達成の場合は、補正係数を除して変更する。

完全週休2日交替制の取組を希望しない場合は、月単位の週休2日交替制の補正係数に変更する。また、休日率の達成状況を確認後、月単位の週休2日交替制が未達成の場合は、補正係数を除して変更する。

第53条 悪天候等により工期変更が必要となる場合の協議を簡素化する試行

1. 受注者は、著しい悪天候により作業不稼働日が多く発生し、工期内に工事を完成することが困難な場合はその理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。

著しい悪天候とは、当該工事の工期月の雨休率が、直近5カ年における工期月の雨休率の平均値を超える場合をいう。

工期月とは、工事着手日から工事完成予定日までの期間のうちの、工期の延長変更請求時までにかかる月（ただし、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は除く）をいう。

なお、本工事の降雨降雪日は、河口湖観測所（気象庁のデータ）における1日の降雨・降雪量が10mm以上／日の日を想定している。

2. アンケート調査を行う場合は、これに協力すること。

第54条 施工時期及び施工時間の変更

本工事の作業区分は下記によるものとする。

作業区分	施工区分	標準作業時間
昼間作業	全工種（除雪工を除く）	8：00～17：00

夜間作業	応急処理工（除雪工を除く）	21：00～6：00
昼夜間作業	除雪工	第102条参照

上記については、積算上の条件明示であり、作業時間を指定するものではない。

※各々の標準作業時間には、日々の作業準備、後片付け、KY等安全活動なども含まれる。

ただし、上記区分に変更を要する場合は、監督職員と協議するものとする。

第55条 概算・概略数量

本工事は、概略数量を示したものであり、詳細については監督職員の指示によるものとする。

第56条 新技術の活用「新技術の定義」

1. 本工事は、新技術活用の促進を図ることを目的とした、新技術活用工事である。
2. 新技術の定義

新技術活用の原則化における新技術の定義は以下による。

- ① 技術の成立性が技術を開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されている技術
- ② 公共工事等において実用段階に達している技術
- ③ 当該技術の適用範囲において従来技術に比べて活用の効果が同程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術
- ④ 実用段階に達していない技術又は要素技術など研究開発段階にある技術であつて国により導入促進を図る技術

3. 対象とする新技術

新技術活用の原則義務化の対象とする新技術は以下のとおりとする。

- 1) 新技術情報提供システム（NETIS）登録技術
URL <http://www.netis.mlit.go.jp>
- 2) NETISのテーマ設定型の技術比較表に掲載されている技術
- 3) 新技術導入促進（Ⅱ）型により活用する技術
- 4) 新技術のニーズ・シーズマッチングにより現場実証し、従来技術と同等以上と確認できた技術

対象とする技術は、NETIS「マッチング」に掲載された技術のうち、「標準化推進技術」「普及促進技術」のいずれかに該当するものとする。

なお、NETIS掲載期間終了技術は対象外とする。

第57条 新技術の活用「施工者選定型」

1. 本工事は、施工者が原則1技術以上の新技術を選択したうえで活用を図る新技術活用工事である。
2. 本工事において、第56条 新技術の活用「新技術の定義」3. 対象とする新技術に示す1)～4)の技術が選定されていない場合、受注者は施工に先立ち、当該工事内容につ

いて十分把握の上、新技術を原則1つ以上選定し、監督職員の承諾を得た上で活用するものとし、活用する新技術の名称及び内容等を施工計画書に記載するものとする。活用する新技術がNETIS登録技術の場合は新技術活用計画書も提出するものとする。

3. 受注者は、選定した新技術が第56条 新技術の活用「新技術の定義」3. 対象とする新技術に示す1)～4)のいずれの新技術であるか確認できるよう、施工計画書に記載する。
4. 当該技術については、設計図書等で定められた事項に係る部分でない場合は、設計変更の対象としない。
5. 受注者は、試行現場照会中の技術を活用する場合において当該技術の施工にあたりNETIS申請者が実施する「試行調査」に協力するものとする。
なお、試行調査に係る費用はNETIS申請者が負担する。
6. 試行現場照会中の技術を活用する場合、当該工事の実施箇所において標準的に使用される技術の施工費相当額を超える費用については、試行調査に係る費用とみなし、NETIS申請者の負担とする。
7. 受注者は、活用する新技術が情報種別記号「－VE」以外のNETIS登録技術の場合は、当該技術の施工にあたり「活用効果調査」を行うものとする。「活用効果調査」は、「新技術情報提供システム（NETIS）」より作成し、監督職員に提出するものとする。
8. 受注者は、本工事によって知り得た当該技術に係わる情報は、監督職員の許可なく公表してはならない。

第58条 道路巡視における点検支援技術活用の原則化について

1. 道路巡回工は点検支援技術の活用を原則とする工種である。

道路巡回工における点検支援技術の活用は、機器等の特性を生かして、「国が管理する一般国道及び高速自動車国道の維持管理基準（案）」における道路巡回時の「道路の異常」や「道路施設の状況等」の確認作業を実施することで、確認・記録作業の省力化と高度化を図ることを目的とする。ここでいう点検支援技術とは、「点検支援技術性能カタログ（国土交通省）」に掲載されている技術などを指す。

（参考）点検支援技術性能カタログ（国土交通省）

<https://www.mlit.go.jp/road/tech/zyunshi-list.html>

受注者は、ポットホールの確認及び区画線の劣化状況の把握について、「点検支援技術性能カタログ」に掲載された技術を原則として活用するものとし、カタログに掲載している技術のうち、ポットホールの確認についてはポットホールの検出率が80%以上のものから選定することを基本とする。区画線の劣化状況の把握については区画線のランク1判定の検出率、的中率がいずれも80%以上のものから選定することを基本とする。

ただし、携帯電話端末やドライブレコーダなどによる車両搭載機器型は、道路管理者所有の車両に設置し、一定期間繰り返し走行し測定することを想定しており、データを積み重ねて精度を高めることが出来るため、カタログ掲載された技術であれば、80%未満の精度であっても選定可能とする。その場合、具体的な調査方法や活用する箇所等については、調査職員と協議のうえ決定する。なお、現地状況や機器調達などの受注者の責によら

ない場合や点検支援技術の活用による効率化や業務品質確保が図られない場合は、調査職員と協議のうえ対象外とすることができる。

2. 点検支援技術の活用に係る費用
設計変更の対象とする。

第59条 建設現場における遠隔臨場の実施（発注者指定型）

1. 建設現場における遠隔臨場の実施

「建設現場における遠隔臨場の実施」は、受注者における「段階確認に伴う手待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（監督員）における「現場臨場の削減による効率的な時間の活用」を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）とWeb会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」の遠隔臨場を行うものとする。

なお、遠隔臨場の実施にあたっては「建設現場における遠隔臨場に関する実施要領（案）R5.3」を参考に実施するものとする。

URL <https://www.mlit.go.jp/tec/content/001594449.pdf>

2. 遠隔臨場を適用する工種、確認項目

現場での適用・不適用については、受発注者間にて協議の上、適用する工種・確認項目を選定することとする。

3. 実施内容

（1）段階確認・材料確認、立会での確認

①受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）により取得した映像及び音声を、Web会議システム等を介して「段階確認」「材料確認」と「立会」を行うものとする。

②確認実施者が現場技術員の場合、現場技術員は使用するPCにて遠隔臨場の映像（実施状況）を画面キャプチャ等で記録し、情報共有システム（ASP）等に登録して保管する。（従来の立会資料の管理と同様とする。）

（2）動画撮影

動画撮影は、撮影者の安全を確保するため、撮影者が移動の際に横転等が考えられるいわゆる「歩きスマホ」（カメラを手を持って歩きながら撮影）での撮影はしないこと。

動画撮影は、静止して撮影又は撮影者のヘルメットや胸ポケットに付ける等の安全に配慮するものとする。

（3）機器の準備

遠隔臨場に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）やWeb会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督職員等と協議し決定するものとする。

なお、配信に利用するシステムは、「パッケージ化したシステム」、「情報共有システム（ASP）」、「Web会議システム（teams、zoom等）」等、何れのシステムを利用してよい。

（4）遠隔臨場を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で協議を行うものとする。対応方法に関しては、確認箇所を画像・映像で記録したものをメール等の代替手段で共有し、監督職員等は机上確認することも可能とする。

なお、本項目は受発注者間で協議し、別日の現場臨場に変更することを妨げるものではない。

(5) フォローアップ調査

工事完了時に別紙様式－8を監督職員へ提出するものとする。

また、遠隔臨場を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示によるものとする。

(6) 費用

遠隔臨場にかかる費用については、工事实施に必要な施工管理費として、全必要額を技術管理費に積み上げ計上し、設計変更するものとする。

なお、機器の手配は基本的にリースとし、その賃料を計上するものとするがやむを得ず購入せざるを得ない機器がある場合は、その購入費に、機器の耐用年数に対する使用期間（日単位）割合を乗じた分を計上するものとする。

また、受注者が所持する機器を使用する場合も、基本的には同様の考え方とするものとする。

(7) 不正行為

遠隔臨場において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、「建設業者の不正行為等に対する監督処分の基準 令和7年12月12日（国不建第121号）」等に従い、監督処分を実施する場合がある。

第60条 建設現場における遠隔臨場を活用した工事検査の実施

1. 建設現場における遠隔臨場を活用した工事検査の実施

「遠隔臨場を活用した工事検査」は、受注者における「工事検査に伴う移動時間の削減や工事関係書類の簡素化」や発注者（監督職員・検査職員）における「現場実地（現場臨場）の削減による効率的な時間の活用」等を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360度カメラ等）とWeb会議システム等を介して工事实施状況、出来形、品質と出来ばえの各検査項目を遠隔で行うものである。なお、遠隔臨場による工事検査は、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』の内容に従い実施する。

2. 遠隔臨場を活用した工事検査の対象

遠隔臨場を活用した工事検査は、完成検査、中間技術検査、既済部分検査、完済部分検査における、工事实施状況、出来形、品質、出来ばえの各検査項目を対象とし、以下の表に示す。また、全ての検査を対象とするが、現場条件や、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』「7.3検査項目の適応性」を踏まえ、従来方法（対面書類検査、現場実地検査）を選択することも可能である。

凡例 ○：遠隔臨場による工事検査の対象

	工事実施 状況	出来形		品質		出来ばえ	
	書類	書類	実地	書類	実地	書類	実地
完成検査	○	○	○	○	○	○	○
中間技術検査	○	○	○	○	○	○	○
既済部分検査	○	○	○	○	○	○	○
完済部分検査	○	○	○	○	○	○	○

3. 遠隔臨場を活用した工事検査を適用する検査項目

現場条件により遠隔臨場による工事検査の適応性が一致しない場合も想定されることから、検査項目での適用・不適用については、監督職員が検査職員と調整・決定し、受注者に遠隔臨場による工事検査を適用する検査項目を連絡する。遠隔臨場による工事検査を適用する検査項目については、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』「7.3 検査項目の適応性」を踏まえ判断する。

4. 実施内容

(1) 技術検査、工事検査での実施

受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360度カメラ等）により取得した映像及び音声を、Web会議システム等を介して工事実施状況、出来形、品質と出来ばえの各検査を実施するものである。

(2) 機器の準備

遠隔臨場による工事検査に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360度カメラ等）やWeb会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督職員と協議し決定するものとする。

(3) 遠隔臨場による工事検査を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場による工事検査が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で予備日を取り決めて検査日を連絡する。

(4) 効果の検証

遠隔臨場による工事検査を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示による。

(5) 費用

遠隔臨場による工事検査にかかる費用については、受発注者間の協議を踏まえ、技術管理費に積上げ計上する。なお、監督業務で遠隔臨場を実施する工事については、遠隔検査を行うために追加で要する費用が生じた場合に監督職員と協議するものとする。

(6) 不正行為

遠隔臨場による工事検査において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、『建設業者の不正行為等に対する監督処分の基準 令和7年12月12日（国不建第121号）』等に従い、監督処分を実施する場合がある。

第61条 契約後VE方式

「VE提案」とは、契約書第19条の2の規定に基づき、設計図書に定める工事目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金額の低減を可能とする工事材料、施工方法等に係る設計図書の変更について、受注者が発注者に行う提案である。

1. 受注者がVE提案を行う範囲は、設計図書に定められている内容のものとする。
2. 以下の提案は、VE提案の範囲に含まないものとする。
 - (1) 施工方法等を除く工期の延長等の施工条件の変更を伴う提案。
 - (2) 契約書第18条に規定された条件変更等に該当する事実との関係が認められる提案。
 - (3) 提案の実施に当たり、関係機関協議等、第三者との調整等を要する提案。
3. 受注者は、前項のVE提案を行う場合は、次に掲げる事項をVE提案書(別紙様式－1～4)に記載し、発注者に提出しなければならない。
 - (1) 設計図書に定める内容とVE提案の内容の対比及び提案理由
 - (2) VE提案の実施方法に関する事項（当該提案に係る施工上の条件等を含む）
 - (3) VE提案が採用された場合の工事代金額の概算低減額及び算出根拠
 - (4) 発注者が別途発注する関連工事との関係
 - (5) 工業所有権等の排他的権利を含むVE提案である場合、その取扱に関する事項
 - (6) その他VE提案が採用された場合に留意すべき事項
4. 発注者は、提出されたVE提案書に関する追加的資料、図書その他の書類の提出を受注者に求めることができる。
5. 受注者は、前項のVE提案を契約の締結日より、当該VE提案に係る部分の施工に着手する35日前までに、発注者に提出できるものとする。
6. VE提案の提出費用は、受注者の負担とする。
7. 提出されたVE提案は、施工の確実性、安全性が確保され、かつ設計図書に定める工事の目的物と比較し、機能、性能等が同等以上で経済性が優位であると判断されるものについては、VE提案として採用することを原則として審査を行い、当該提案の採否を決定するものとする。
8. VE提案の採否について、原則として、VE提案の受領後14日以内に書面(別紙様式－5)により通知するものとする。ただし、受注者の同意を得た上でこの期間を延長することができるものとする。また、VE提案を採用しなかった場合には、その理由を付して通知するものとする。
9. VE提案を採用した場合の設計変更について
 - (1) VE提案を採用した場合において、必要があるときは、発注者は設計図書の変更を行わなければならない。
 - (2) 前項の規定により設計図書の変更が行われた場合において、発注者は、必要があるときは請負代金額を変更しなければならない。
 - (3) 前項の変更を行う場合においては、VE提案により請負代金額が低減すると見込まれる額の10分の5に相当する金額（以下「VE管理費」という。）を削減しないものとする。
 - (4) VE提案を採用した後、契約書第18条の条件変更が生じた場合、発注者がVE提

案に対する変更案を求めた場合、受注者はこれに応じるものとする。なお、V E管理費については、原則として、変更しないものとする。

- 1 0. 評定の結果、当該V E提案内容の活用が効果的であると認められた場合は、他の工事においても積極的に活用を図るものとする。その場合、工業所有権等の排他的権利を有する提案については当該権利の保護に留意するものとする。
- 1 1. 発注者がV E提案等を採用し、設計図書の変更を行った場合においても、V E提案を行った受注者の責任が否定されるものではない。

第6 2条 生産性向上チャレンジ工事

1. 試行の実施

本工事は、受注者の発案による施工手順の工夫等の創意工夫による生産性向上の取組みを推進する「生産性向上チャレンジ」の試行対象工事である。

2. 試行の内容

工事契約後、受注者は、当該工事において、省人化等の生産性向上に資する取組みを実施することができる。

本取組みを実施する場合は、施工計画書に「生産性向上チャレンジ工事」の項目を設け、①取組内容、②期待される効果等を明記するものとし、完成検査までに実施内容及び効果を報告するものとする。また、期待される効果等について、人員削減や作業時間削減等の定量的な効果を記載できる場合は記載することとする。

なお、「技術提案で提案済みの内容」及び「特記仕様書第5 6条 新技術の活用「新技術の定義」」において採用した取組については本試行の対象外とする。

3. 工事成績評定

施工計画書で位置づけられた「生産性向上チャレンジ工事」の取組の履行が確認できた場合は加点を行うこととする。

4. 本試行に係る費用については、原則、受注者負担によるものとする。

第6 3条 出来高部分払方式

本工事は部分払は、短い間隔で出来高に応じた部分払や設計変更協議を実施し、円滑かつ速やかな工事代金の流通を確保することによって、より双務性及び質の高い施工体制の確保を目指すため、「出来高部分払方式実施要領」[国土交通省HP https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000052.html 参照]に基づき行うものとする。

第6 4条 少雪時における除雪体制を確保するために必要となる固定的経費の積算計上の試行

1. 本工事は、少雪時において除雪体制を確保するために必要となる固定的経費を積算計上する試行工事である。
2. 試行にあたり、受注者は発注者に試行の取組の意向の有無を報告すること。また、受注者に取組の意思がある場合は、下記について受発注者間協議により設定すること。

(1) 固定的経費（全体額）の対象となる除雪機械等の設定

本試行では、1 ヶ月以上除雪体制に組み込まれている除雪機械、凍結防止剤散布車

等を対象とし、受発注者間協議により、機械と台数を設定するものとする。ただし、他工事と併用する除雪機械、凍結防止剤散布車等は対象としない。

また、保有区分については、発注者からの貸付機械、自社持ち機械、リース機械を対象とする。

(2) 除雪体制確保期間の設定

除雪体制確保期間は、地域の降雪の実情に応じて除雪体制の確保が必要な期間を設定するものとする。また、機械ごとに日単位で設定するものとする。

3. 固定的経費の費用計上

本試行においては、下記(1)から(3)により固定的経費を計上することとする。

(1) 固定的経費（全体額）の算出

固定的経費（全体額）＝M1＋M2

M1＝Σ（K・D）

M2＝M1に対応した間接費（共通仮設費＋現場管理費＋一般管理費等）

M1：固定的経費（直接工事費）（円）

M2：M1を対象額とした間接費（円）

K：機械経費（固定費）（円／日）

D：除雪体制確保期間（日）

※間接費の算定にあたっては無償貸付機械評価額も考慮すること

※固定的経費（全体額）を算出する際は当該工事の落札率を乗じること

※固定的経費（全体額）（M1＋M2）は税抜き価格とする

（万円単位、万円未満切り捨て）

(2) 「除雪実作業経費（出来高分）」と「除雪待機費」の合計額の算出

除雪実作業経費（出来高分）＋除雪待機費＝直接工事費＋間接費

※間接費＝直接工事費に対応した間接費（共通仮設費＋現場管理費＋一般管理費等）

※除雪実作業経費（出来高分）及び除雪待機費は、精算変更時の数量とし、通常の設計変更と同様、単価合意率を踏まえて算出すること

※除雪実作業経費（出来高分）と除雪待機費の合計額は税抜き価格とする（万円単位、万円未満切り捨て）

(3) 固定的経費（計上額）の積算計上

上記(2)で算出した「除雪実作業経費（出来高分）」と「除雪待機費」の合計額が、上記(1)で算出した「固定的経費（全体額）」を下回る場合において、以下の計算式により「固定的経費（計上額）」を積算計上する。

固定的経費（計上額）＝固定的経費（全体額）－（除雪実作業経費（出来高分）＋除雪待機費）

※なお、複数年国債で実施している維持工事については、単年度ごとに評価することとする。

4. 除雪機械等の定期点検等

本試行に取り組む場合、受注者は試行の対象となっている除雪機械、凍結防止剤散布車

等の機械を定期的に点検し、点検整備簿等を保管しておくものとする。

5. 監督職員等による履行状況の確認

精算変更時に固定的経費を計上する場合、監督職員は関係書類を精算変更前に確認するものとする。また、受注者は、完成検査時に検査職員に関係書類の提示を求められた場合は提示するものとする。なお、固定的経費を計上しない工事については、上記資料の提示は要しない。

関係書類は下記のとおりとし、貸付機械については貸付機械の仕様書等に基づく書類を基本とするが、これによりがたい場合は監督職員と協議するものとする。

項目	内容
除雪機械の台数	固定的経費の対象となる除雪機械の一覧表等
除雪機械の規格	除雪機械の規格が明記されている書類(貸付調書、借用(返納)書等)
供用日数	供用日数が確認できる書類(貸付調書、借用(返納)書等)
保険料	保険加入に関する書類(契約書、明細書等) ※発注者が加入済みの場合は不要
公租公課	納税に関する書類(納税証明書等) ※発注者が納税済みの場合は不要
格納保管等経費	格納保管、点検・整備・修理に関する書類(保管状況写真、点検整備簿等)

6. アンケート調査

本試行においては、試行の取組状況等の確認を行うため、アンケート調査を実施する予定であるのでこれに協力すること。

第65条 1日未満で完了する作業の積算

1. 「1日未満で完了する作業の積算」の適用が可能な工事である。
2. 受注者は、土木工事標準積算基準による金額相当と乖離があった場合に、「1日未満で完了する作業の積算」の適用について協議の発議を行うことができる。
3. 同一作業員の作業が他工種・細別の作業と組合せて1日作業となる場合には、「1日未満で完了する作業の積算」は適用しない。
4. 受注者は、協議に当って、「1日未満で完了する作業の積算」に該当することを示す書面その他協議に必要となる根拠資料(日報、実際の費用がわかる資料等)を監督職員に提出すること。実際の費用がわかる資料(見積書、契約書、請求書等)により、土木工事標準積算基準による金額相当との乖離が確認できない場合には、「1日未満で完了する作業の積算」は適用しない。
5. 通年維持工事、災害復旧工事等で人工精算する場合、「時間的制約を受ける公共土木工事の積算」を適用して積算する場合等、「1日未満で完了する作業の積算」以外の方法によることが適当と判断される場合には、適用しない。

第66条 直轄土木工事における賃金・労働時間等の実態調査(試行)(受注者希望方式)

1. 本工事は、受注者の協力の下、賃金・労働時間・労務費(以下「賃金・労働時間等」という。)の実態を調査する試行工事である。
2. 受注者は、契約締結後、賃金・労働時間等の実態調査に協力する意向がある場合には、実態調査に協力する工種・種別・細別(以下、「工種等」という。)を発注者へ報告するものとする。

3. 発注者は、実態調査に協力する工種等の報告を受けた工種等より調査対象を選定するとともに、調査対象工種等の施工が完了した後、受注者は、別途監督職員より通知される実態調査要領に基づき資料を提出するものとする。
4. 発注者は、提出された資料をもとに賃金、労働時間等の実施率・達成率を算出後、積算上の作業時間を示した資料を提出するとともに、賃金、労働時間等の実施率・達成率を工事完成検査後に受注者、下請業者（注文者）、下請業者（使用者）に通知するものとする。

第67条 南海トラフ地震臨時情報【巨大地震警戒、巨大地震注意】発表時の対応

1. 本工事の施工場所は、南海トラフ地震防災対策推進地域が含まれる工事である。
2. 受注者は、本工事の施工条件、施工内容を踏まえ、南海トラフ地震臨時情報【巨大地震警戒、巨大地震注意】の発表時における、後発地震による揺れの影響が大きい作業又は津波による影響を受ける作業に対する措置の内容及び津波避難を含む作業員等の安全確保の方法について施工計画書に記載するものとする。なお、南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域における工事にあつては、津波避難に関して施工計画書に記載するものとする。
3. 受注者は、南海トラフ地震臨時情報【巨大地震警戒】が気象庁から発表された場合には、本工事の施工条件、施工内容を踏まえ、あらかじめ定めた施工計画書の措置内容に基づき、後発地震による揺れの影響が大きい作業又は津波による影響を受ける作業について、工事請負契約書第20条等の規定に基づく発注者からの一時中止の通知があつたものとして、警戒する措置が解除されるまでの間（1週間）は一時中止するものとする。その他の作業について、受注者は、改めて後発地震又は津波に備え作業の一時中止か継続を判断するものとし、その結果を、監督職員に連絡し、その後の対応について監督職員の指示を受けるものとする。工事等を継続する場合に受注者は、本工事等に必要な安全対策の措置を速やかに講じ、土木工事安全施工技術指針に基づき適切に作業員等の安全確保に努めなければならない。
4. 受注者は、南海トラフ地震臨時情報【巨大地震注意】が気象庁から発表された場合には、本工事の施工条件、施工内容を踏まえ、改めて後発地震による揺れの影響が大きい作業又は津波による影響を受ける作業の一時中止か継続を判断するものとし、その結果を、監督職員に連絡し、その後の対応について監督職員の指示を受けるものとする。工事等を継続する場合に受注者は、本工事等に必要な安全対策の措置を速やかに講じ、土木工事安全施工技術指針に基づき適切に作業員等の安全確保に努めなければならない。
5. 受注者は、南海トラフ地震臨時情報を受けて措置を行った場合においては、実施した内容について監督職員に報告するものとする。
6. なお、南海トラフ地震臨時情報の発表があつた場合は、後発地震及び津波の発生に備えるため必要に応じて、受注者は施工計画書の記載にかかわらず、工事の一時中止について監督職員と協議できるものとする。

第68条 現場技術員

本工事は、現場技術員の配置対象工事であり、現場技術業務を建設コンサルタント等に

委託する予定としている。

第69条 施工体制調査員

本工事は、現場における施工体制の点検補助を建設コンサルタント等に委託する予定としている。また、本工事の施工体制の点検を担当する施工体制調査員の氏名は、別途監督職員より通知する。

なお、施工体制調査員は、工事の情報共有システム（ASP）により電子書類を閲覧し、点検を行うため、施工体制調査員を情報共有システム（ASP）のユーザーに登録するものとする。（「閲覧のみ可能」で登録）

第70条 施工体制の点検

1. 受注者は「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」（平成12年法律第127号 最終改正令和7年12月12日）第15条3により発注者から施工体制について点検を求められたときは、これを受けることを拒んではならない。
2. 施工体制の点検員は当該工事の監督職員、施工体制調査員及び発注担当事務所の職員である。
3. 施工体制調査員は、業務証明書を携帯し、胸に委託業務名、委託先、業務職（施工体制調査員）、氏名、顔写真の入った名札を着用している。
4. 当該工事の監督職員及び発注担当事務所の職員は、所属、氏名、顔写真の入った名札を着用している。
5. 施工体制調査員は、施工体制の点検を行う者で、指示等の権限は有しない。
6. 施工体制調査員は、電子書類の点検を工事の情報共有システム（ASP）により「閲覧」し、点検する。
7. 施工体制調査員は、第1回目の現地点検は現地で点検するが、以降の点検は、映像により点検が可能な項目は、必要に応じ、工事の受注者が導入しているWEB会議や遠隔臨場システムを活用し、点検することを可能とする。

ただし、立会や打合せ等においてWEB会議や遠隔臨場システムを導入していない工事や現地で点検を希望する工事は、従来通り、現地で点検する。

第71条 工事完成図書の納品

1. 本工事は電子納品対象工事とする。電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品すること」をいう。ここでいう電子成果品とは、「工事完成図書の電子納品等要領（令和5年3月）」：（以下「要領」という。）に基づいて作成した電子データを指す。

「要領」で特に記載がない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、「要領」の解釈に疑義がある場合は監督職員と協議の上、電子化の是非を決定する。

なお、電子納品の運用にあたっては、「電子納品等運用ガイドライン【土木工事編】（令和6年3月）」を参考とするものとする。

2. 本工事は「オンライン電子納品実施要領」に基づき、オンライン電子納品を行うものとする。

オンライン電子納品は、発注者が用意した電子納品保管管理サーバへのオンラインによる納品を原則とする。

なお、オンラインによる納品が実施出来ない場合は、監督職員と協議の上、電子媒体に格納して納品するものとする。

3. 成果品の提出の際には、電子納品チェックシステムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウィルス対策を実施したうえで提出すること。

第72条 書類限定検査

1. 本工事は、検査に必要な書類を限定し、監督職員と技術検査官の重複確認廃止の徹底及び受注者における説明用資料等の書類削減により効率化を図る「書類限定検査」の対象である。
2. 書類限定検査とは、検査時に下記の10書類に限定して資料検査を行うものとする。

①施工計画書	⑥出来形管理図表
②施工体制台帳（下請引取検査書類を含む。）	⑦品質管理図表
③工事打合せ簿（協議）	⑧品質規格証明資料
④工事打合せ簿（提出）	⑨品質証明書
⑤工事打合せ簿（承諾）	⑩工事写真

なお、以下の工事については対象外とする。

- ・「低入札価格対象工事」又は「監督体制強化工事」は対象外
- ・施工中、監督職員より文書等により改善指示が発出された工事は対象外

3. 実施状況や改善点等を把握するためのアンケートに協力する。

第73条 ウィルス対策

受注者は、電子納品時のみならず、監督職員と工事に関する事項について電子データを提出する際には、ウィルス対策を実施した上で提出しなければならない。

また、ウィルスチェックソフトは常に最新データに更新（アップデート）しなければならない。

第2章 個人情報の取り扱いについて

（基本的事項）

- 第74条 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務を処理するための個人情報の取り扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）第66条第2項第1号の規定に基づき、個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない。

(秘密の保持)

第75条 受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(取得の制限)

第76条 受注者は、この契約による事務を処理するために個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。また、当該利用目的の達成に必要な範囲で、適正かつ公正な手段で個人情報を取得しなければならない。

(利用及び提供の制限)

第77条 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための利用目的以外の目的のために個人情報を自ら利用し、又は提供してはならない。

(複写等の禁止)

第78条 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するために発注者から提供を受けた個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

(再委託の禁止)

第79条 受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための個人情報については自ら取り扱うものとし、第三者にその取り扱いを伴う事務を再委託してはならない。なお、発注者の指示又は承諾により第三者に個人情報の取り扱いを伴う事務を再委託する場合（二以上の段階にわたる委託を含む。）には、受注者は当該第三者に対して、個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）第66条第2項第4号に基づく個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じさせなければならない。

(事案発生時における報告)

第80条 受注者は、個人情報の漏えい等の事案が発生し、又は発生するおそれがあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(資料等の返却等)

第81条 受注者は、この契約による事務を処理するために発注者から貸与され、又は受注者が収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等を、この契約の終了後又は解除後速やかに発注者に返却し、又は引き渡さなければならない。ただし、発注者が、廃棄又は消去など別の方法を指示したときは、当該指示に従うものとする。なお、発注者の指示又は承諾

により個人情報が記録された資料を複写した場合には、確実にそれらを廃棄又は消去するとともに、証明書（別紙－２）を発注者に提出しなければならない。

２ 前項の規定は、発注者の指示又は承諾により第三者に個人情報の取り扱いを伴う事務を再委託する場合（二以上の段階にわたる委託を含む。）において準用する。

（管理の確認等）

第８２条 発注者は、受注者における個人情報の管理の状況について適時確認することができる。また、発注者は必要と認めるときは、受注者に対し個人情報の取り扱い状況について報告を求め、又は検査することができる。

（管理体制の整備）

第８３条 受注者は、この契約による事務に係る個人情報の管理に関する責任者を特定するなど管理体制を定めなければならない。

（従事者への周知）

第８４条 受注者は、従事者に対し、在職中及び退職後においてもこの契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならないことなど、個人情報の保護に関して必要な事項を周知しなければならない。

第３章 材料

第８５条 一般瀝青材料

ストレートアスファルトの針入度は下表のとおりとする。

用 途	針 入 度	摘 要
基層・表層	４０ ～ ６０ (６０ ～ ８０)	冬期使用可

ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第８６条 区画線

塗装厚は、下表のとおりとする。

１．溶融式

幅 (cm)	厚 (mm)	摘 要
１０	１．５	夜間の視認性が優れたもの。
１５		
２０		
３０		
４５		

２．設置様式は、別添－１を参考とし、詳細仕様については監督職員の指示によるものとする。

る。

第4章 無筋・鉄筋コンクリート

第87条 レディーミクストコンクリート

1. コンクリートは、レディーミクストコンクリートを原則とし、下記の仕様によるものとする。

用途	粗骨材の 最大寸法	スランプ	水セメント 比	呼び強度	セメントの 種類
応急処理	25mm	8±2.5cm	55%以下	21N/mm ²	高炉セメント B種
応急処理	40mm	8±2.5cm	60%以下	18N/mm ²	高炉セメント B種

ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

2. コンクリートの耐久性向上の対策は「コンクリートの耐久性向上」仕様書（土木編）（平成14年8月一部改正）により行うものとする。

第88条 配合

一般の環境条件の場合のコンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比は、鉄筋コンクリートについては55%以下、無筋コンクリートについては60%以下としなければならない。

水セメント比については、示方配合表により監督職員の確認を得なければならない。なお、水セメント比を減じることにより施工性が著しく低下する場合は、必要に応じて、高性能減水剤の使用等を検討しなければならない。また、下記構造物については適用除外とする。

- ・仮設構造物（建設後数年の内に撤去するもの。）
- ・最大高さ1m未満の擁壁・水路・側溝及び街渠等の構造物。
- ・管（函）渠等（φ600未満、600mm×600mm未満）の構造物
- ・道路照明、標識、防護柵等の構造物
- ・耐久性を期待しない構造物。

第5章 舗装

第89条 材料

粒度調整路盤材料は、M40とする。

加熱アスファルト混合物の示方アスファルト量及び骨材の最大粒径は、下記のとおりとする。

呼び名	混合物の種類	最大粒径 (mm)	アスファルト量 (%)	摘要
R A s t	再生瀝青安定処理	4 0	4. 0	上層路盤
R A ①	再生粗粒度アスコン	2 0	5. 0	基層
改A②	改質Ⅱ型密粒度アスコン	2 0	5. 5	表層

第90条 舗装準備工

補足材は、粒度調整碎石を用いるものとし、敷込厚は平均3cmとする。

ただし、敷込厚については、契約変更の対象とする。

第91条 ポリマー改質アスファルト

1. 配合設計

耐流動対策の配合設計は、骨材粒度範囲の中央値以下を目標にし、75 μ mふるい通過重量百分率は小さめにする。75 μ mふるい通過分のうち、回収ダスト分は30%を越えないものとする。最適アスファルト量は、下表のマーシャル基準値を満足するアスファルト量の共通範囲の中央値かそれ以下とする。

安定度 S (kN)	フロー値 F (1/100cm)	空隙率 (%)	飽和度 (%)	S/F (kN/m)
7.35以上	土木工事共通仕様書による			2,500以上

注) 突き固め回数は75回とする。

耐流動化対策を行う場合は、最適アスファルト量でホイールトラッキング試験を行い、DS値を確認し監督職員の承諾を得るものとする。

DSの目標値は下表のとおりとするが、目標値に達しない場合は、監督職員と協議するものとする。

(単位：回/mm程度)

交通量区分	N 6		N 7	
適用箇所	表層	基層	表層	中間層
一般部	3, 0 0 0	—	4, 0 0 0	4, 0 0 0
交差点部	4, 0 0 0	4, 0 0 0	5, 0 0 0	5, 0 0 0

注) 上表は一般部と交差点部のDSの目標値を分けて施工する場合の記載例であり、一般部と交差点部のDSの目標値を同一にする場合は交差点部のDS値に合わせるものとする。

2. 混合

混合時間は、骨材にアスファルトの被覆が十分に行われ、均一に混合できる時間とする。混合温度は、アスファルトの動粘度が150～300センチストークス（セイボルトフロー度75～150秒）を示す温度範囲から選ぶことを原則とするが、製品により望ましい温度が異なるため留意するものとする。

3. 混合物の運搬

混合物の運搬にあたっては、十分な保温措置を施すものとする。

4. 敷均し・転圧

混合物の舗設は、通常のアスファルト混合物より高い温度で行う必要があり、しかも製品により望ましい温度が異なるため、特に温度管理に留意し速やかに敷均しを行い十分に転圧を行うものとする。

5. 施工計画

一般部、交差点部の標準的な1日当たりの施工工程を施工計画に記載するものとする。

なお、作成にあたり、夏期においては初期わだち掘れに影響を与える交通開放温度に、冬期においては締固め度に影響を与えるアスファルト混合物の温度低下に留意するものとする。

第92条 加熱アスファルト混合物

受注者は、本工事に使用する加熱アスファルト混合物（以下「混合物」という。）で、アスファルト混合物事前審査の認定を受けた混合所の混合物を使用する場合は、「アスファルト混合物事前審査における土木工事仕様書」及び「アスファルト混合物事前審査における品質管理基準」によるものとする。

第93条 中温化アスファルト舗装の試行

本工事に於いて、中温化アスファルト舗装の試行の実施について、監督職員と協議するものとする。なお、中温化アスファルト混合物の流通状況等により、実施が困難な場合もあるため、本試行の実施は任意とする。

＜試行内容＞

- ・新規合材を対象とする。
- ・実施範囲や実施時期等の詳細については、監督職員と協議する。
- ・中温化アスファルト混合物は製造時の加熱温度をマイナス20℃又はマイナス30℃低減させて製造されるものを使用する。
- ・機械式フォームド方式を基本とするが、監督職員と協議の上、添加剤方式も可とする。
- ・本試行に伴う追加費用は設計変更の対象とする。
- ・本試行を実施した場合、実施後に監督職員より送付されるアンケートに協力するものとする。

第94条 区画線工

作業の実施上消去した区画線は、仮区画線で復旧するものとする。

第6章 道路維持

第95条 除草

1. 機械除草の施工においては、現地状況から必要に応じて、飛石等により第三者に危険が及ばないように防護を行うものとする。
2. 現地状況により、上下刃逆回転式草刈り機等の使用が必要となる場合、監督職員と協議の上、設計変更の対象とするものとする。
3. 除草工により発生する発生物の搬出については下記のとおりとする。
 - ① 受け入れ場所
山梨県富士吉田市上吉田4838 (株) タケエイグリーンリサイクル
上記①については積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。
なお、受注者の提示する施設と異なる場合でも設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項については、監督職員と協議の上、契約変更の対象とすることができる。
なお、運搬距離は積算上3.7kmを見込んでいる。
 - ② 受け入れ時間
8:00～17:30
 - ③ 搬出に先立ち、受け入れ条件について処理場に確認しなければならない。
 - ④ 搬出に際しては、搬出調書を作成し監督職員に提出しなければならない。
 - ⑤ 工事発生後に明らかになったやむを得ない事情により、前項により難しい場合には、監督職員と協議するものとする。
4. 雑草の発生物の処分に当たっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の諸法令を遵守し、適切に処理すること。

第96条 応急処理作業

受注者は、日々の作業が終了した時に速やかに関係書類（出来高報告）を作成し、その確認を受けなければならない。

1. 応急処理とは、道路上で発生し短時間で処理可能な作業をいう。
2. 作業日、作業場所、作業内容はすべて監督職員の指示に基づいて行うものとする。
3. 作業終了後、関係書類を速やかに提出し、監督職員の確認を得るものとする。

第7章 道路修繕

第97条 路面切削工、切削オーバーレイ工

切削後の基準高の変更は、行わないものとする。

1. 縦断方向の段差は原則としてつくってはならない。やむを得ず施工する場合は、交通に支障のないよう摺付を行うものとする。
2. 段差箇所付近には「段差あり」の標識を設置しなければならない。
3. 切削オーバーレイ工（表層、基層）は即日2層舗設の施工方法で見込んでいるが現場状況や作業上の支障により、これにより難しい場合は事前に監督職員と協議するものとする。

第98条 オーバーレイ工

横断測量は、20m間隔に行うものとする。

第99条 舗装打換え工

舗装版打換え作業は、舗装版取り壊し、舗装工（アスファルト安定処理、基層、表層）を即日で仕上げ、交通解放するものとする。なお、これにより難しい場合は監督職員と協議するものとする。

第8章 除雪工

第100条 目的及び目標

1. 本作業の目的は、冬期間の降雪等から安全かつ円滑な道路交通を確保することである。
2. 本作業の除雪目標は、異常降雪時を除き常時2車線以上の幅員を確保することとする。

第101条 一般事項

共通仕様書第15章第3節の「除雪工」の各作業実施時期、箇所、施工方法の指示は監督職員の指示によるものとする。

第102条 作業時間帯

除雪工の作業時間帯は、下記のとおりとする。

昼間作業A 8:00～17:00

昼間作業B 17:00～20:00

夜間作業C 20:00～ 5:00

夜間作業D 5:00～ 8:00

第103条 出来高確認

出来高確認の方法は、別紙-4のとおりとする。

第104条 除雪作業

作業は道路除雪ハンドブック等を参考とし道路状況を把握し、迅速かつ適正な作業を行うものとする。また、作業開始は、監督職員の指示によるものを原則とし、終了時は監督職員に報告するものとする。ただし、局地的降雪、凍結等の異常時には必要に応じて監督職員の指示がなくとも、すみやかに作業を開始し、遅滞なく監督職員に連絡するものとする。

1. 一般除雪工

- (1) 一般除雪工は、新雪除雪・拡幅除雪・路面整正・圧雪処理を除雪グレーダ、小型除雪車、トラクタショベル、除雪ドーザ等の機械により行うものとする。

2. 運搬除雪工

- (1) 運搬除雪工は、トラクタショベル、除雪ドーザ、小型除雪車等とダンプトラックの組み合わせにより行うものとする。
 - (2) 捨雪場所については監督職員と協議するものとし、ブルドーザにより整地するものとする。
 - (3) 運搬除雪作業において、使用機械に対して補助作業員を配置するものとする。
3. 凍結防止工
- (1) 凍結防止工は、凍結防止剤散布車により行うものとする。
 - (2) 薬剤は、塩化ナトリウムを使用する。山間部の気温が著しく低くなる地域や、緊急時凍結防止剤の散布場所、散布量、散布方法については、監督職員の指示によるものとする。なお、塩化ナトリウムについては、購入単価契約にて購入し支給する予定であるが、実施状況により設計変更にて対応する。
 - (3) 凍結防止剤散布車による凍結防止剤散布が不可能な箇所については、人力による散布を行うものとする。
4. 歩道除雪工
- (1) 歩道除雪は、ハンドガイド式除雪機により行うものとする。
5. 雑工
- (1) 歩道・歩道橋など除雪、圧雪処理、雪底処理等において機械による作業が不可能な場合、人力による作業は雑作業として処理するものとする。

第105条 雪道巡回

1. 降雪時及び凍結の恐れがある時には、監督職員の指示により、速やかにパトロールを行い、道路状況を把握し監督職員に報告しなければならない。
2. パトロール中に異常が認められた場合は、応急措置を行ったうえ無線等により連絡を行い監督職員の指示を受けるものとする。
3. 1回当たりの雪道巡回は、出張所管内を1周するものとする。なお、これによりがたい場合は、監督職員と協議するものとする。

第106条 始動準備

待機期間中に2週間以上の除雪作業に伴う稼働がなかった無償貸付機械について次の出動に備えたアイドリング状態の確認、作業装置類の動作確認、基地構内での試運転30分以上実施するものとする。また、始動準備における人員体制は除雪作業時と同じとする。

なお実施に当たっては監督職員の了解を得るものとする。

第107条 待機補償

1. 降雪の恐れのあるときの夜間、待機を監督職員が指示したときは、基地に情報連絡員、オペレータを待機させるものとする。
2. 情報連絡員（世話役）は、雪に関する情報、交通情報等の収集整理及び除雪作業管理を行うものとする。
3. 待機補償は、連絡要員については、待機及び除雪機械の稼働時間について補償する。機

械オペレータについては、待機時間を補償する。

第108条 作業日報

1. 作業日報の様式は、監督職員の指示によるものとする。
2. 受注者は、原則として作業日報を作業日の翌日までに監督職員に提出しなければならない。
3. 監督職員の指示する除雪機械の運転については、タコグラフまたはタスクメータ等を取り付けるものとし、記録紙は日報に添付し監督職員に提出するものとする。

第109条 施設の利用

1. 本作業の施工に際し以下の施設を使用すること。
 - ・精進湖スノーステーション（山梨県南都留郡富士河口湖町精進字瀬々波地先）
2. 施設の光熱費、水道料、諸経費等は請負者負担とし、施設内の備品の損失、破損は請負者の責において現状復旧または、損害を賠償するものとする。

第9章 道路巡回工（パトロール車乗務）

第110条 道路巡回の目的及び内容

道路巡回は、道路が常時良好な状態に保たれるよう、道路及び道路の利用状況を把握し、道路の異常及び不法占用等に対して、適宜措置を講ずるとともに道路管理上に必要な情報及び資料を収集することを目的とする。

巡回の内容については、平成26年4月1日改定「関東地方整備局道路巡回実施要領（案）」（以下、「巡回要領」という。）に準じて行うものとする。

第111条 履行体制等

1. 期間
令和8年4月1日から令和10年3月31日までの間。
2. 場所
富士吉田国道出張所管内（一般国道138号、一般国道139号）
3. 編成
原則として、道路巡回員及び巡回運行員（以下、「道路巡回員等」という。）で構成する1班を1班編制する。
4. 従事体制及び回数
 - （1）道路巡回員及び巡回運行員の体制
延べ91回／年（土日、休日を含む）
 - （2）発注者及び巡回運行員の体制
延べ91回／年（平日のみ）
上記（1）、（2）の回数は、1班当たりのものである。

5. 履行時間

通常巡回：1回当たり8時30分から17時15分までを基本とする。

6. その他

巡回回数及び履行時間に大幅な変更が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

第112条 道路巡回員及び巡回運行員の資格

1. 道路巡回員は、下記のいずれかの資格を有する者とする。

- (1) 技術士（総合技術監理部門又は建設部門）の資格を有する者
- (2) 一級又は二級土木施工管理技士の資格を有する者
- (3) 土木学会特別上級技術者、土木学会上級技術者又は土木学会一般技術者の資格を有する者
- (4) RCCM又はRCCMと同等の能力を有する者（技術士部門と同様の部門に限る）
- (5) 道路法第71条第4項の道路監理員の経験を1年以上有する者
- (6) 道路又は河川関係の技術的行政経験25年以上有する者
- (7) 道路巡回業務、施設点検業務及び道路の維持管理に関する業務の経験を1年以上有する者

2. 巡回運行員の資格は、下記の（1）及び（2）の要件を満たす者とする。

- (1) 普通自動車運転免許（AT車限定を除く。）を取得し、免許を受けている期間が3年以上の者
- (2) 年齢が65歳未満の者（令和8年4月1日現在）の者であること。
- (3) 車両の運行等に支障がない健康状態であることを証明できる者。なお、証明とは医師による健康診断書等に基づく乙の誓約書（別紙－9）による証明をいう。

第113条 道路巡回員等の選任

道路巡回に携わる道路巡回員等は複数登録できるものとし、受注者は作業着手時に道路巡回員及び巡回運行員の氏名及び資格証明書等の写しを監督職員に提出し、確認を受けるものとする。なお、変更する場合についても同様とする。

第114条 道路巡回員等の役割

1. 道路巡回員

原則としてパトロール車に乗車して、第115条に掲げる任務を巡回運行員と協力して行うものとする。

2. 巡回運行員

パトロール車の日常管理及び運転を行うほか、第115条に掲げる任務を道路巡回員と協力して行うものとする。

なお、発注者が同乗する場合において、発注者が第115条第2項各号に掲げる道路異常等臨機の事由を発見したと認められるときは、自主的に安全な場所にパトロール車を停車させて同条の任務を行うことができるものとする。

3. 道路巡回員等は、必要に応じて徒歩による巡回を行うものとする。

第115条 道路巡回員等の任務

1. 事前の準備

- (1) 道路巡回の出発に当たり巡回区間の状況を把握し、必要な車載常備機材の確認を行う等の十分な準備を行うこと。
- (2) 腕章を着用するとともに発注者が発行する道路巡回員証を携帯し、巡回中に第三者から請求があった場合は、これを提示するものとする。

2. 路上障害等発見時の措置

道路巡回中に本項各号の道路及び道路付属物の異常や路上障害物等を発見したような場合若しくは、道路の不法占有を発見したときなど、パトロール車を停車させ、その状況について、調査・把握を行い、必要により速やかに電話等で監督職員に状況を報告するとともに、所要の対応をとるものとする。

なお、交通の危険を防止するため、緊急的に措置を行わなければならない場合はその場でとりうる適切な措置を講ずるとともに、必要によりその状況について速やかに電話等で監督職員に報告するものとする。

- (1) 落下物を発見したとき
- (2) 路面ポットホールを発見したとき
- (3) ポットホール以外の路面損傷（ジョイント損傷・陥没）を発見したとき
- (4) 交通に危険を及ぼすおそれのある油漏れ等の汚染を発見したとき
- (5) 道路付属物（側溝・縁石等）の損傷を発見したとき
- (6) 道路占用物件の異常・損傷（水道の水漏れ、電柱の破損・倒壊等）を発見したとき
- (7) 防災施設（擁壁・法面等）の異常を発見したとき
- (8) 交通安全施設（ガードレール、防止柵、標識等）の損傷を発見したとき
- (9) 工事等による交通規制方法の不適切を発見したとき
- (10) 土砂崩れや落石を発見したとき
- (11) 交通に危険を及ぼすおそれのある道路区域外の倒木等を発見したとき
- (12) ブリンカーライトや道路照明の不点灯や異常点灯を発見したとき
- (13) 散水融雪設備の故障や異常を発見したとき
- (14) 路面冠水・路面凍結を発見したとき
- (15) 新たな不法占用を発見したとき
- (16) 道路工事許可を受けていない工事を発見したとき
- (17) 交通事故を目撃し、道路管理者として対応すべきとき
- (18) その他、歩行者や車両交通の安全に影響及ぼす事象を発見したとき

3. 安全対策の徹底

任務遂行に当たっては、以下の安全対策を行うものとする。

- (1) 黄色回転灯を点滅させて後続車両の追突防止を図ること。
- (2) パトロール車は、路肩または非常駐車帯等の安全な場所に停車すること。
- (3) パトロール車の標識装置を有効に活用すること。
- (4) その他、交通量、気象状況、地形等を考慮して必要な対策を講じること。

4. 道路巡回状況の資料化

- (1) 道路巡回中に措置を行った事象については、必ず写真撮影を行うものとする。
- (2) 占用工事の実施状況や道路交通状況等について適時写真撮影を行い、道路管理状況の記録とすること。

5. パトロール日誌の提出等

道路巡回結果の記録は、次の各号によるものとする。

- (1) 道路巡回により把握した事項、措置した事項についてはパトロール日誌を作成の上、写真等の関連資料とともに道路巡回終了後速やかに監督職員に提出しなければならない。但し、閉庁日等の理由で上記によりがたい場合は、翌実施日に提出するものとする。
- (2) パトロール日誌の様式及び記入方法については、巡回要領に準じて行うものとする。
- (3) 道路巡回中に撮影した写真は、日時・状態を記録し、整理するものとする。

第116条 異常時における道路巡回

甲府河川国道事務所の「防災業務計画」により、風水害・地震災害等による体制が発令され、監督職員から指示された場合には、道路巡回等を行うものとし、設計変更の対象とする。

第117条 パトロール車

1. 原形復旧義務等

受注者は、使用するパトロール車（車両の附属物を含む）を滅失したときは、同等品以上の代物を弁償し、毀損したときは原形に復旧しなければならないものとする。

2. パトロール車の保管場所等

受注者に管理を委託するパトロール車及び保管場所は、別紙－5のとおりとする。

3. 車両の管理及び点検等

次の各号とおりとする。

なお、受注者は各月末をもって「車両走行実績及び車両管理報告書」を別紙－6により作成し翌月10日までに監督職員に提出するものとする。

- (1) 車両の管理
- (2) 車両の日常点検整備
受注者は、業務の履行時間内に車両の整備及びワックスがけ等を適宜行うものとする。
- (3) ガソリン・軽油・油脂等の購入と給油
- (4) 消耗品、備品の管理
- (5) 自動車保険（任意保険）に関する事項
- (6) 事故処理に関する事項
- (7) その他各号に付帯する事項

4. 受注者の遵守事項

- (1) 監督職員の承諾なしにパトロール車を本工事以外の目的に使用してはならないものとする。
- (2) 道路交通法その他関係法令等を遵守し、関連道路等の地理に精通しておかなければならないものとする。

5. パトロール車の変更等

- (1) 監督職員は、必要がある場合は、受注者に対して書面による通知をもってパトロール車を変更できるものとし、設計変更の対象とする場合がある。
- (2) パトロール車に故障等が生じて使用できない場合は、受注者は監督職員に遅滞なく報告を行い、指示を受けること。
- (3) 車両点検等で官所有のパトロール車が使用できない場合は、監督職員と協議を行うものとし、設計変更の対象とする。

6. 自動車保険の加入

- (1) 本工事で管理するパトロール車にかかる自動車保険契約の保険金額は、次のとおりとする。

担保項目	車両賠償	対人賠償	対物賠償	搭乗者賠償
保険金額	査定額	無制限	無制限	500万円以上

- (2) 保険加入に必要な車両の仕様は、別紙－7のとおりである。

7. 費用負担

パトロール車にかかる費用負担については、別紙－8の費用負担区分表に基づき発注者及び受注者が負担するものとする。

なお、費用負担区分に定めのない事項については、協議のうえ行うものとする。

8. 燃料等

パトロール車に使用する燃料等は、次の各号に定めるものを使用するものとする。

- (1) 燃料は、使用車種に適合した仕様を使用するものとする。
- (2) エンジンオイルは、四季を通じて使用可能なものとし、冬期は不凍液を使用する。
- (3) その他のものは、車種による純正品を使用する。

9. エンジンオイルの交換

パトロール車の走行距離が概ね4, 0 0 0 k m毎にエンジンオイルを交換するものとする。

10. 事故等の報告

- (1) 受注者は、作業中に事故等が発生した場合は、負傷者の救護、警察・消防への報告及び危険防止の措置を講ずるとともに速やかにその状況を監督職員に報告しなければならない。
- (2) 受注者は、事故等に伴い業務の遂行に支障がでないよう速やかに要員等の確保に努めるものとする。

第118条 成果品

第115条第5項によりパトロール日誌及び写真等の関連資料を提出するものとする。

第119条 その他

1. 業務の履行に当たっては、閉庁日を除き庁舎の一部を使用することができるものとする。なお、庁舎使用については、別途使用賃貸契約を締結するものとする。
2. 業務に必要な机・椅子等の備品及び消耗品は、別途使用契約を締結するものとする。
3. 受注者は、貸与された備品及び消耗品は、善良な管理を行わなければならない。
4. 道路巡回員等の作業服・安全帽等は受注者で用意するものとする。

第10章 徒歩巡回工

第120条 徒歩巡回工

徒歩巡回工は、出張所管内を徒歩で巡回し、道路管理上必要な情報及び資料を、歩道から確認できる範囲で収集するものであり、道路巡回工（パトロール車乗務）だけでは把握できない道路の異常を確認して指摘することを目的とする。

徒歩巡回工の内容については、異常確認箇所の写真撮影を行うとともに、その内容を取りまとめて監督職員へ提出するものとする。巡回の内容に関する詳細については、監督職員から別途指示する。

徒歩巡回工の所要日数は、出張所管内を1往復／1年とし、普通作業員1人が平均5km／日巡回するものとして当初数量を見込んでいるが、道路状況や気象状況等により大幅な変更が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

第11章 その他

第121条 舗装台帳

舗装台帳等の資料作成は、監督職員の指示により作成し、工事完成時に下記の資料を提出するものとする。

提出資料 各2部（原稿1部、コピー1部）

- (1) 舗装台帳
- (2) 舗装施工データシート (別紙様式-6)
- (3) 舗装施工概略図
- (4) 位置図（1／5万）
- (5) 平面図（完成平面図）

第122条 全国道路施設点検データベース（舗装）への登録について

1. 受注者は、必要に応じ管理運営団体の定める方法によりユーザー登録を行った上で、舗装工事のデータを全国道路施設点検データベース（舗装）（以下「点検DB（舗装）」）に登録する。登録するデータは「道路舗装データベース 登録・利用マニュアル」によるものとし、事前に監督職員と協議しなければならない。登録するデータに係る権利は、第

123条に定めるとおりとする。

なお、点検DB（舗装）の管理運営団体に支払う登録料については設計変更の対象とする。

また、上記マニュアルは、全国道路施設点検データベース（舗装）の管理運営団体のホームページ（https://www.jice.or.jp/pavement_db/）で閲覧できる。

2. 受注者は、状況写真や地形図を含む一般図などの画像データ等において、個人情報が表示されない様加工を施したものを使用するとともに、点検DB（舗装）へ登録するデータに個人情報が含まれないことを確認しなければならない。また、登録するデータに個人情報が含まれないことを確認する手法について施工計画書に明記し、個人情報が含まれないことを確認した書類として「**別紙－10**」に示すチェックリストを提出すること。

なお、受注者と発注者の双方がチェックリストにより、個人情報が含まれないことを確認した後でなければ、データ登録を行ってはならない。

第123条 登録するデータに係る権利について

1. 本業務の成果として点検DB（舗装）へ登録されるデータ及びこれに係る特許、実用新案登録、意匠登録等を受ける権利及び当該権利に基づき取得する産業財産権並びに著作権（著作権法第27条及び第28条に定める権利を含む。）その他の知的財産権（ノウハウ等に関する権利を含む。）は、すべて登録・確定と同時に発注者に帰属する。
2. 点検DB（舗装）へ登録されるデータに係る知的財産権のうち、受注者又は第三者が従前から保有していた知的財産権が含まれる場合、受注者は、発注者、発注者が指定する者及び点検DB（舗装）を利用する者（以下「発注者等」という。）に対し、当該知的財産権の利用を許諾し、又は許諾させるものとする。
3. 受注者は、自ら（受注者に所属する者を含む。）又は第三者をして、発注者等に対し、点検DB（舗装）へ登録されるデータを構成する著作物に係る著作権者人格権を行使せず又は行使させない。
4. 前三項の場合において、受注者は、発注者に知的財産権を帰属させ若しくは発注者が適法に知的財産権を行使するため、又は発注者等による点検DB（舗装）の運用及び利用のために必要となる一切の手續（第三者からの許諾取得を含む。）を履践するものとする。
5. 発注者及び受注者は、前四項に定める権利の帰属及び不行使並びに手續履践の対価が委託料に含まれることを相互に確認する。
6. 受注者は、点検DB（舗装）へ登録されるデータが知的財産権を含む第三者の権利を侵害しないことを表明及び保証し、受注者がかかる表明保証に違反したことにより発注者が第三者から訴訟を提起され又は権利を主張される等の紛争が生じた場合には当該紛争の解決に協力するとともに、発注者に生じた損害、損失及び費用（合理的な範囲の弁護士費用を含む。）について、発注者に対してこれを補償するものとする。

第124条 震災対策

1. 地震発生等の天災に備えて、あらかじめその対応策を定めておくものとする。
2. 地震注意情報等が発令された場合は、直ちに工事を中断し、その情報に応じた適切な保

全措置等を講ずるものとする。

第125条 道路施設基本データの作成

本工事完成時には、以下に示す「道路施設基本データ」を作成し、監督職員に提出するものとする。ただし、本工事に該当しない施設の基本データは作成しないものとする。

なお、完成後でも、発注者は受注者に対して、「道路施設基本データ」の内容について、説明を求めることがある。

1. 道路施設基本データの種類

区分	施設番号	施 設 名	区分	施設番号	施 設 名
道路 構 造	C020	縦断勾配	付 属 物 お よ び 付 属 施 設	E060	道路情報板
	C030	平面線形		E070	交通遮断機
	C050	舗装		E080	I. T. V
	C060	道路交差点		E090	車両感知器
	C070	鉄道交差点		E100	車両諸元計測施設
	C080	歩道及び自転車歩行者道		E110	気象観測施設
	C090	独立専用歩道		E120	災害予知装置
	C100	中央帯		E130	自動車駐車場等
	C110	環境施設帯		E140	自転車駐車場
構 造 物	D010	橋梁		E150	雪崩防止施設
	D020	橋側歩道橋		E160	落石防止施設
	D030	横断歩道橋		E170	消雪パイプ
	D040	トンネル		E180	ロードヒーティング
	D050	洞門		E190	除雪ステーション
	D060	スノーシェッド		E200	防災備蓄
	D070	地下横断歩道		E210	共同溝
	D080	道路BOX等		E220	CAB電線共同溝
	D090	横断BOX等		E230	植栽
	D100	パイプカルバート		E240	遮音施設
	D120	擁壁		E250	遮光フェンス
	D130	スノーシェルター		E270	流雪溝
付 属 物	E010	防護柵		E310	防雪林
	E020	道路照明		E320	路側放送
	E030	視線誘導標(反射式)		E330	光ケーブル施設
	E040	視線誘導標(自光式)		E340	道路反射鏡
	E050	道路標識		E350	ビーコン

2. 道路施設基本データの作成は、別に定める「道路管理データベース データ作成マニュアル（案）」によるものとする。

3. 道路施設基本データは、「道路施設基本データ作成システム」で作成する。

4. 道路施設基本データ作成にあたって工事番号は、CORINS登録時の「工事契約コード番号」とする。
5. 道路施設基本データに係わる以下のものを電子データにて提出すること。

- ① 道路施設台帳作成総括表
- ② 道路施設基本データ総括表
- ③ 道路施設基本データ一覧表
- ④ 道路施設台帳チェックシート
- ⑤ 「道路工事完成図等チェックプログラム」によるチェック結果
- ⑥ 「電子納品チェックプログラム」によるチェック結果
- ⑦ 工事数量総括表

なお、作成に要する費用については、当初は計上していないため、設計変更の対象とする。

第126条 「問合せ番号」及び「路上規制情報システム」

受注者は、「路上規制情報システム」への入力を行うものとし、別途監督職員が通知する「問合せ番号」を工事情報看板及び工事説明看板に掲示するものとする。

なお、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第127条 特定外来生物の対応

本工事施工にあたり、道路区域内で「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」による特定外来生物が確認された場合は、速やかに監督職員に報告するものとし、対応については監督職員の指示によるものとする。

第128条 相談窓口の設置

本工事は、受注者との相互理解を深めるコミュニケーションの向上を図ることを目的として、作業状況、安全対策、工期設定や必要経緯費等について相談窓口を設置している。相談窓口を希望する場合は、以下に問合せを行うこと。

相談窓口：道路担当副所長（管理）

電 話：055-252-5491（代）

明示項目及び明示事項

明示項目	明示事項	記載条項
工程関係	☐ 他の工事の開始又は完了の時期により、当該工事の施工時期、全体工事等に影響がある場合は、影響箇所及び他の工事の内容、開始又は完了の時期。 ■ 施工時期、施工時間及び施工方法が制限される場合は、制限される施工内容、施工時期、施工時間及び施工方法。 ☐ 当該工事の関係機関等との協議に未成立のものがある場合は、制約を受ける内容及びその協議内容、成立見込み時期。 ☐ 関係機関、自治体等との協議の結果、特定された条件が付され当該工事の工程に影響がある場合は、その項目及び影響範囲。 ☐ 余裕工期を設定して発注する工事については、工事の着手時期。 ☐ 工事着手前に地下埋設物及び埋蔵文化財等の事前調査を必要とする場合は、その項目及び調査期間。又、地下埋設物等の移設が予定されている場合は、その移設期間。 ☐ 設計工程上見込んでいる休日日数等作業不能日数。	第50条、第54条
用地関係	☐ 工事用地等に未処理部分がある場合は、その場所、範囲及び処理の見込み時期。 ☐ 工事用地等の使用終了後における復旧内容。 ☐ 工事用仮設道路・資機材置き場用の借地をさせる場合、その場所、範囲、時期、期間、使用条件、復旧方法等。 ☐ 施工者に、消波ブロック、桁製作等の仮設ヤードとして官有地等及び発注者が借り上げた土地を使用させる場合は、その場所、範囲、時期、期間、使用条件、復旧方法等。	
公害関係	■ 工事に伴う公害防止（騒音、振動、粉塵、排出ガス等）のため、施工方法、建設機械・設備、作業時間等を指定する必要がある場合は、その内容。 ☐ 水替・流入防止施設が必要な場合は、その内容、期間。 ■ 濁水、湧水等の処理で特別の対策を必要とする場合は、その内容（処理施設、処理条件等）。 ☐ 工事の施工に伴って発生する騒音、振動、地盤沈下、地下水の枯渇等、電波障害等に起因する事業損失が懸念される場合は、事前・事後調査の区分とその調査時期、未然に防止するために必要な調査方法、範囲等。	第43条 第44条
安全対策関係	■ 交通安全施設等を指定する場合は、その内容、期間。 ☐ 鉄道、ガス、電気、電話、水道等の施設と近接する工事での施工方法、作業時間等に制限がある場合は、その内容。 ☐ 落石、雪崩、土砂崩落等に対する防護施設が必要な場合は、その内容。 ■ 交通誘導員、警戒船及び発破作業等の保全設備、保安要員の配置を指定する場合又は発破作業等に制限がある場合は、その内容。 ☐ 有毒ガス及び酸素欠乏等の対策として、換気設備等が必要な場合は、その内容。	第36条 第36条6項、第39条
工事用道路関係	一般道路を搬入路として使用する場合 ☐ 工事用資機材等の搬入経路、使用期間、使用時間帯等に制限がある場合は、その経路、期間、時間帯等。 ☐ 搬入路の使用後及び使用後の処置が必要である場合は、その処置内容。 仮道路を設置する場合。 ☐ 仮道路に関する安全施設等が必要である場合は、その内容、期間。 ☐ 仮道路の工事終了後の処置（存置又は撤去）。 ☐ 仮道路の維持補修が必要である場合は、その内容。	
仮設備関係	☐ 仮土留、仮橋、足場等の仮設物を他の工事に引き渡す場合及び引き継いで使用する場合は、その内容、期間、条件等。 ☐ 仮設備の構造及びその施工方法を指定する場合は、その構造及びその施工方法 ☐ 仮設備の設計条件を指定する場合は、その内容。	

明示項目	明示事項	記載条項
建設副産物関係	☐ 建設発生土が発生する場合は、残土の受入場所及び仮置き場所までの距離、時間等の処分及び保管条件。 ☐ 建設副産物の現場内での再利用及び減量化が必要な場合は、その内容。 ☒ 建設副産物及び建設廃棄物が発生する場合は、その処理方法、処理場等の処理条件。 なお、再資源化処理施設又は最終処分場を指定する場合は、その受入場所、距離、時間等の処分条件。	第25条、第95条
工事支障物件等	☐ 地上、地下等の占用物件の有無及び占用物件等で工事支障物が存在する場合は、支障物件名、管理者、位置、移設時期、工事方法、防護等。 ☐ 地上、地下等の占用物件工事と重複して施工する場合は、その工事内容及び期間等。	
薬液注入関係	☐ 薬液注入を行う場合は、設計条件、工法区分、材料種類、施工範囲、削孔数量、削孔延長及び注入量、注入圧等。 ☐ 周辺環境への調査が必要な場合は、その内容。	
その他	☐ 工事用資機材の保管及び仮置きが必要である場合は、その保管及び仮置き場所、期間、保管方法等。 ☐ 工事現場発生品がある場合は、その品名、数量、現場内での再使用の有無、引き渡し場所等。 ☒ 支給材料及び貸与品がある場合は、その品名、数量、品質、規格又は性能、引渡場所、引渡期間等。 ☐ 関係機関・自治体等との近接協議に係る条件等その内容。 ☐ 架設工法を指定する場合は、その施工方法及び施工条件。 ☐ 工事用電力等を指定する場合は、その内容。 ☐ 新技術・新工法・特許工法を指定する場合は、その内容。 ☐ 部分使用を行う必要がある場合は、その箇所及び使用時期。 ☐ 給水の必要のある場合は、取水箇所・方法等。	第22条、第23条、第117条

証明書

工事（業務）名：_____

受 注 業 者：_____

証 明 者：_____

個人情報記録された資料等について、廃棄又は消去したことを証明します。

※以下は、紙により提出する場合において、押印を省略する場合のみ記載すること。
連絡先は2以上記載すること。

本件責任者（会社名・部署名・氏名）：_____

担当者（会社名・部署名・氏名）：_____

連絡先 1：_____

連絡先 2：_____

（※証明者について「現場代理人」又は「主任（監理）技術者」が行うものとする。）

支		給		品		明		細		書							
名	称	規	格	単	位	員	数	単	価	金	額	支	給	場	所	摘	要
【令和8年度】																	
塩化ナトリウム		1. 0t詰め		t		300								富士吉田国道出張所			
塩化ナトリウム		1. 0t詰め		t		100								精進湖スノーステーション			
【令和9年度】																	
塩化ナトリウム		1. 0t詰め		t		300								富士吉田国道出張所			
塩化ナトリウム		1. 0t詰め		t		100								精進湖スノーステーション			

別紙－3－2

貸 付 機 械 明 細 書

機械名	規格	機械番号	目的	登録番号	引渡場所	返納場所	備考
除雪トラック	7t級 4×4 フラウ付き	R05-2301	一般除雪工	富士山800は114	精進湖スノー ステーション	精進湖スノー ステーション	
除雪トラック	7t級 4×4 フラウ付き	R05-2302	一般除雪工	富士山800は115	精進湖スノー ステーション	精進湖スノー ステーション	
散水車	4500L 給水装置付、 フラウ付	R04-1309	一般除雪工	山梨800は1132	精進湖スノー ステーション	精進湖スノー ステーション	
凍結防止剤散布車	湿潤式4t級 ホツパ容量3.4m3	25-2301	凍結防止工	富士山800は37	富士吉田 国道出張所	富士吉田 国道出張所	
凍結防止剤散布車	湿潤式4t級 ホツパ容量3.4m3 ホイール・2ステージ型	26-2303	凍結防止工	富士山800は41	富士吉田 国道出張所	富士吉田 国道出張所	
小型除雪車 (ロータリ除雪車)	1.5m級、130PS 簡易フラウ付	29-2304	一般除雪工、 運搬除雪工	富士山900る18	精進湖スノー ステーション	精進湖スノー ステーション	
小型除雪車 (ロータリ除雪車)	ホイール・2ステージ型 1.3m級、80PS	R04-2301	一般除雪工、 運搬除雪工	富士山900る22	精進湖スノー ステーション	精進湖スノー ステーション	
小型除雪車 (クローラ・ハンドガイド型除雪機)	11PS	SS-901	歩道除雪工		富士吉田 国道出張所	富士吉田 国道出張所	
小型除雪車 (クローラ・ハンドガイド型除雪機)	11PS	SS-902	歩道除雪工		富士吉田 国道出張所	富士吉田 国道出張所	
小型除雪車 (クローラ・ハンドガイド型除雪機)	16PS	SS-1601	歩道除雪工		富士吉田 国道出張所	富士吉田 国道出張所	
小型除雪車 (クローラ・ハンドガイド型除雪機)	16PS	SS-1602	歩道除雪工		富士吉田 国道出張所	富士吉田 国道出張所	

除 雪 作 業 出 来 高 確 認 方 法

工 種	種別・細別	測定単位	測定方法	摘 要
一般除雪工	除雪グレーダ	時間(10分)	記録紙	
	小型除雪車(ロータリー除雪車)	時間(10分)	記録紙	
	除雪ドーザ	時間(10分)	記録紙	
	散水車	時間(10分)	記録紙	
運搬除雪工	除雪ドーザ	時間(10分)	記録紙	
	ダンプトラック	時間(10分)	記録紙	
	小型除雪車(ロータリー除雪車)	時間(10分)	記録紙	
	除雪ドーザ	時間(10分)	記録紙	
凍結防止工	凍結防止剤散布車	時間(10分)	記録紙	
	凍結防止剤積込(塩化カルシウム)	重量(0.01t)	空袋数量	
	凍結防止剤積込(塩化ナトリウム)	重量(0.01t)	空袋数量	
	人力薬剤散布(塩化カルシウム)	重量(0.01t)	空袋数量	
歩道除雪工	小型除雪機(ハートカイト式除雪機)	時間(10分)	—	
雑工	人力処理	時間(10分)	—	
雪道巡回工	ライトバン	走行距離(1km)	記録紙	
		巡回回数(1回)	—	
待機補償	情報連絡員、機械オペレーター	時間(10分)	—	

パトロール車の概要及び保管場所

整理番号	1	2
配置所属	富士吉田国道出張所	
実施時間	午前８時３０分 ～ 午後５時１５分	
車 種	パトロール車	
車 名	マツダＣＸ－５	
型 式	6BA-KFEP	
登録番号	富士山 800 さ 918	
登録年月日	令和 6 年 2 月	
保管場所	富士吉田国道出張所 山梨県富士吉田市上吉田 3-2-18	
基本走行距離	109 k m／日	
燃料（燃費）	ガソリン（9.0 k m／L）	
車両価格	—	
稼動日数	1 8 2 回／年	

令和 年 月 日

(主任監督員)

殿

(請負者現場代理人)

印

車両走行実績及び車両管理報告書
(令和 年 月分)

標記のことについては、下記のとおり報告します。

記

整 理 番 号	1	2
登 録 番 号	富士山 800 さ 918	
稼 働 日 数	当月 日 累計 日	
走 行 距 離	当月 k m 累計 k m	
燃 料	当月 L 累計 L	
オ イ ル	当月 L 累計 L	
修 理 状 況		

自動車任意保険調書

任意保険	① フリート又はノンフリート ② 保険金額 ～対人：無制限、対物：無制限、 搭乗者障害：500万円以上 ③ 保険料支払 ～年払い
車両保険	① フリート又はノンフリート ～免責5万円(又は車両により7万円) ② 保険料支払 ～年払い

整理番号	1			2
配置所属	富士吉田国道出張所			
車 種	パトロール車			
車 名	マツダ C X - 5			
型 式	6BA-KFEP			
登録番号	富士山 800 さ 918			
登録年月日	令和 6 年 2 月			
車両条件	エア バック	運転席	○	
		助手席	○	
	A B S		○	
	横滑防止		×	
	安全ボディー		○	
	低公害車		○	
	盗難防止装置（種類）		×	
	車両価格	車両価格 （購入価格）		—

記載要領

車両条件 : 適合するものは○、不適合のものは×を付すこと。
 盗難防止装置は、適合する場合に種類を記載する。

費用負担区分表

項	目	発 注 者	請 負 者
車検、税及び 保険	車検整備	○	
	重量税	○	
	自動車税	○	
	自賠責保険	○	
	自動車任意保険		○
法定点検	点検整備	○	
燃料及び油脂	燃料		○
	エンジンオイル		○
	デフオイル		○
	トランスミッションオイル		○
	ブレーキフルード		○
	グリース		○
	その他オイル類		○
消耗品	オイルエレメント		○
	ウインドウワッシャー液		○
	バッテリー液		○
	ワックス		○
	不凍液		○
	ウェス		○
	油膜とり		○
	くもり止め		○
	消臭剤		○
	タイヤクリーナー		○
	セーム皮		○
	洗車ブラシ		○
	カーシャンプー		○
	タオル落とし		○
	手袋		○
	バケツ		○
	その他必要な消耗品		○
修理及び整備	タイヤの交換	○	
	チューブの交換	○	
	バッテリーの交換	○	
	タイヤチェーンの交換	○	
	シートカバーの交換	○	
	カーブレードの修理調整	○	
	ファンベルトの修理交換	○	
	請負者の責任に よらない修理	○	
その他	通行料	○	
	駐車料	○	
	シートカバーのクリーニング		○

誓約書

車両管理員 氏 名 ○○ ○○
現住所
生年月日

上記車両管理員は、車両管理業務を確実に実施するうえで支障を生じる健康状態にない（既往症に発作を伴う疾病等がない）ことを誓約します。

住 所
商号または名称
代 表 者 氏 名

全国道路施設点検データベースにおける個人情報掲載のチェックリスト

1. 工事等名称

2. 受注者名

3. 個人情報掲載の確認結果【受注者】

☐ 個人情報の掲載がないこと／記載された個人情報のすべての削除を確認済

4. 発注担当課（又は工事監督）

5. 個人情報掲載の確認結果【発注者】

☐ 個人情報の掲載がないこと／記載された個人情報のすべての削除を確認済

※本チェックリストは工事等の打合せ記録簿に添付する。

別紙様式－０－１

【低価格理由とその詳細】

番号	低価格理由	低 価 格 理 由 の 詳 細 内 容
①	資材費の低減	生石灰、セメント系固化材を材料納入品協力会社から7%引きで購入。コンクリート2次製品は19%引きで購入。生コンクリートはグループ会社から20%引きで購入
②		
③	機械経費の低減	自社保有の建設機械車両(全100台)を使用。ダンプトラック運搬はグループ会社を中心に使用し運賃を削減。
④		
⑤	作業効率の向上	現場経験豊富な熟練したオペレータによるロスのない重機作業。仕上がり精度の高い法面整形。補助労務を必要としない程丁寧な仕上りの床堀作業。
⑥	下請業者の協力	施工協力会社に植生基材吹付工を外注し、設計想定より10%引きとする。
⑦	経費の低減	冬期間においても会社から現場まで45分程度で到着する。
⑧	現場管理費の低減	パソコン、デジカメ、プリンタ、仮設資材等を所有している。
⑨	安全資機材の低減	安全標識類を所有している。
⑩	本支店経費の低減	役員報酬、事務員給料を未計上。
⑪		
⑫	受注実績の取得	国交省発注工事の受注実績の取得
⑬		
⑭	その他	作業員の雇用確保、重機械の稼働率向上

別紙様式－０－２

【比較表－１】												
積 算 内 訳 書 の 比 較 表												
記 入 要 領	1) 見積り等積算根拠を示すものがあれば添付する。 2) 数量総括表に対応する内訳書にして下さい。 3) 入札時の元請(当初予定)欄は、入札時に事情聴取した結果と照合確認して下さい。 4) 工事完成時の元請(完成時実績)、官積算(最終)欄は、それぞれ調査票の直接工事費、共通仮設費、現場管理費、一般管理費等および工事価格と合致するか確認して下さい。 5) ※印の官積算欄(予定価格および最終共)は、発注者が記入する欄なので請負者は記入しないで下さい。											
工 事 名	〇〇道路改良工事											
工事区分・工種・種別	単位	入 札 時					工 事 完 成 時					備 考
		官積算(予定価格)※		元請(当初予定)		元請/ 官積 (%)	元請(完成時実績)		官積算(最終)※		元請/ 官積 (%)	
		数量	金額	数量	金額		数量	金額	数量	金額		
道路土工	式	1		1			1		1			
地盤改良工	式	1		1			1		1			
法面工	式	1		1			1		1			
カルバート工	式	1		1			1		1			
排水構造物工	式	1		1			1		1			
構造物撤去工	式	1		1			1		1			
仮設工	式	1		1			1		1			
直接工事費	式	1		1			1		1			
共通仮設費	式	1		1			1		1			
共通仮設費	式	1		1			1		1			
純工事費	式	1		1			1		1			
現場管理費	式	1		1			1		1			
工事原価	式	1		1			1		1			
一般管理費	式	1		1			1		1			
基礎工	式	1		1			1		1			
工事価格	式	1		1			1		1			

別紙様式－０－３

【比較表－２】

内 訳 書 対 する 明 細 書 の 比 較 表

記 入 要 領	1) 本様式は、比較表-1に対する明細を記入することとする。さらにその明細が必要な場合は、本様式を使用しその詳細が明確になるようにする。 2) ※印の官積算欄(予定価格および最終共)は、発注者が記入する欄なので請負者は記入しないで下さい。													
工 事 名	〇〇道路改良工事													
工事区分・工種・ 種別・細別	単 位	入 札 時						工 事 完 成 時						備 考
		官積算(予定価格)※			元請(当初予定)			元請(完成時実績)			官積算(最終)※			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
道路土工	式	1			1			1			1			
掘削工	〃	1			1			1			1			
掘削(土砂)	m3	39,300			39,300			35,800			1			
掘削(軟岩)	〃	2,250			2,250			0			1			
路体盛土工	式	1			1			1			36			
路体(流用土)	m3	4,100			4,100			10,600			14			
法面整形工	式	1			1			1			30			
法面整形(切土部)	m2	5,920			5,920			5,010			9			
法面整形(切土部)	〃	250			250			0			1			
法面整形(盛土)	〃	330			330			160			11			
地盤改良工	式	1			1			1			1			
安定処理工	〃	1			1			1			1			
基礎安定処理 45kg/m3	m2	1,000			1,000			0			1			
〃 53. 6kg/m3 t=0.5m	〃	0			0			115			1			
〃 53. 6kg/m3 t=0.8m	〃	0			0			785			2			
路体安定処理 30kg/m3	m3	4,100			4,100			0			2			
路体安定処理 33kg/m3	m3	0			0			13,100			200			

[illegible]

【比較表－4】

[illegible]

【比較表－5】

手持ち機械の比較表(主要機械)

[illegible]

労務者の確保計画の比較表

[illegible]

【比較表一 7】

工種別労務者配置計画の比較表

[illegible]

【比較表－8】

[illegible][illegible]

【諸経費動向調査（工事費）】

工事費内訳		注)消費税抜で記入してください		金額単位:千円														
費目		元価・元価以上	元 価	元価外注 合計	1	〇〇建設	2	〇〇建設	3	〇〇建設	4	〇〇建設	5	〇〇建設	6	〇〇建設	7	〇〇建設
(1) 直接工事費		50,972	17,009	33,963	20,914	1,441	8,600	2,850	982	0	0	0	0	0	0	0	0	158
(1) 材料費		25,562	13,632	11,930	5,857	137	4,954	982	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 労務費		15,232	0	15,232	9,290	1,248	1,730	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	138
(3) 機械器具等諸料		9,431	2,643	6,788	5,754	56	820	138	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
(4) 安全機械等設備修理・管理費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(5) 直接経費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A 特許使用料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B 光熱電力使用料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(6) 消耗品費		747	734	13	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(7) 労務費		19,863	11,896	7,967	1,098	759	3,250	1,080	1,009	320	283	0	0	0	0	0	0	0
(1) 共通労務費		8,069	4,710	3,359	1,889	120	452	0	888	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イ 運搬費		2,380	70	2,310	1,750	120	440	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A 運搬費		230	70	160	80	40	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 仮設材①		100	0	100	0	60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 仮設材②		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 仮設材③		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 仮設材等		180	70	110	60	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 橋梁等架設費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 橋梁用架設タワー等		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 橋梁用仮設桁架等		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8 橋梁の組み立て費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 トンネル用スライダセンター		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B 建設機械20未満		1,120	0	1,120	660	60	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
① 目土・資材運搬車等		1,080	0	1,080	620	60	400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
② 日当回送による運搬		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③ 現場内小運搬		40	0	40	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C 建設機械20以上		1,010	0	1,010	1,010	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
① 貨物自動車等による運搬		980	0	980	980	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
② 自走による運搬		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③ 日当回送による運搬		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④ 現場内小運搬		30	0	30	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D 準備費		699	699	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A 準備・測量等		673	673	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B その他		26	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハ 事業場安全防止施設費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イ 安全費		1,373	451	922	24	0	0	0	888	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安全留意度 「建設工事公衆災害防止対策要綱」に ついて選択																		
A 安全管理費		147	123	24	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工事区域内全般の安全管理上の費 ① 環、あるいは連絡等に要した費用(環 境の保安要員等の費用を含む)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
② 不稼働日の保安要員等の費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③ 潜水、噴霧、保安費、防護服、リフト等 の安全施設等の設置、撤去、維持に要 した費用及び使用期間中の諸料		102	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④ 取断作業を行う場合における説明に 要した費用		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ 酸素欠乏症の予防に要した費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥ 河川、海岸工事における救命圈に要 した費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦ 粉塵作業の予防に要した費用		24	0	24	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧ 美天トンネル等における防天安全対 策に要した費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨ 安全用品等の費用		19	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩ 安全委員会等に要した費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑪ 国土交通省(運輸)発注工事における 内訳表設置、撤去、維持管理に要し た費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B 交通誘導員等		898	0	898	0	0	0	0	898	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C 交通安全安全管理		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D 事故化等		324	324	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E 高圧作業予防		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F 航路安全管理、警戒船		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G タム発注・監視費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H その他		4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水 役務費		159	159	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A 土地の借上費		159	159	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B 電力用水等基本料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハ 仮設費		2,703	2,682	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A 品質管理費等		69	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B 特別な品質管理		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C 現場検査等費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D 品質保証(社内検査)に要した費用		309	309	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E 各種検査等		320	320	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F 各種台帳等		12	0	12	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G その他		1,999	1,999	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ト 賃借費		759	643	115	115	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A 賃借費		224	224	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B 借上費		100	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C 市泊費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
D 労働者派遣費		115	0	115	115	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E 賃借員住所等		65	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F 美装化等1		254	254	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G 美装化等2		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
I 労働者海上輸送費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チ その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リ 労働者間接費(電気工事、光ケーブル工事 の場合)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 補償費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(3) 設備管理費		11,614	7,186	4,428	-803	639	2,788	1,080	111	320	283	0	0	0	0	0	0	0
イ 労務管理費		528	183	345	20	161	151	0	2	0	11	0	0	0	0	0	0	0
ロ 安全訓練等費用		10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A 安全・衛生に要した費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B 研修訓練等に要した費用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハ 仮設公設		84	47	17	15	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ニ 技術者等賃料(電気工事・光ケーブル工事 の場合)		4,917	3,450	1,467	1,467	860	358	76	214	81	44	0	0	0	0	0	0	0
ホ 保険金		9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハ 保険料		208	0	208	102	0	3	83	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0
(1) 火災保険		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 工事保険		89	0	89	89	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(3) 自動車保険		109	0	109	0	0	3	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(4) 船立保険		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(5) 法定外の労災保険		10	0	10	8	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
(6) その他損害保険		1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ト																		

様式－ 6 (1)

年月日：

V E 提 案 書

(発注者) 殿

(受注者)

工事請負契約書第 1 9 条の 2 に基づき V E 提案書を提出いたします。

工事件名：		連絡者
契約締結日：		氏 名
		T E L
		F A X
V E 提案の概要		
注) 記入欄が不足する場合には、様式－ 6 (1) の 2 として追記して下さい。なお、概算低減額は、提案を審査する上で参考とするものです。		
番 号	項 目 内 容	概算低減額：千円
概 算 低 減 額 合 計		

様式－6 (2)

番 号	項 目 内 容
(1) 設計図書の定める内容と、V E 提案の内容の対比	
【現状】 ----- 略図等	【改善案】 ----- 略図等
(2) 提案理由	
(3) V E 提案の実施方法（材料仕様、施工要領等を記入）	
(4) 品質保証の証明（品質保証書の添付等）	
(5) その他	

様式- 6 (3)

番 号	項目内容

VE提案による概算低減額及び算出根拠

[illegible]

様式－６（４）

番 号		項目内容	
-----	--	------	--

（１）工業所有権等の排他的権利を含むV E 提案である場合、その取扱いに関する事項

（２）V E 提案が採用された場合に留意すべき事項（提案内容の公表に係る所見等）

令和 年 月 日 号

V E 提 案 採 否 通 知 書

〇 〇 〇 〇 殿

分任支出負担行為担当官
甲府河川国道事務所長 印

特記仕様書「〇 V E 提案について」に基づき、令和 年 月 日付けで提出されましたV E 提案に対する審査結果を下記のとおり通知します。

工 事 件 名 : 契約締結日 :		V E 提案項目数 : 採用項目数 : 不採用項目数 :
V E 提案に対する「採否」及びその理由		
番 号	項 目 内 容	概算低減額 : 千円

(注) 採否に関する問い合わせ先

性能規定データ（データコード：0602）記入シート

令和 年 月

整理番号

作成年月日

出張所

事務所

1. 路線名

路線番号 現旧新 枝番号
→1:現道 2:旧道 3:新道

路線名称 (枝番がある時、バイパス名等を記入する)

2. 上り下り区分

1:上り 3:上下

2:下り

9. すべり抵抗

測定年月 元号 年 月
測定方法 R

測定方法 1: すべり抵抗測定車
2: 回転式すべり抵抗試験機 (DFテスト)
3: 振り子式スキッドレジスタンステスト
9: その他

路面温度 度℃
速度1 km/h
速度2 km/h
速度3 km/h

すべり摩擦係数1
すべり摩擦係数2
すべり摩擦係数3

◆記入要領◆
・該当コード番号を○で囲む。
・□□欄は数値、コードを記入し、
不明の場合は「*」を記入する。

主任監督員

作成者

3. 車線 (車線区分+車線番号)

車線番号はセンター側から数えた車線位置番号)

コード	車線区分	コード	車線区分
1	本線	5	左折車線
2	登坂車線	6	加減速車線
3	ゆがみ車線	7	側道
4	右折車線	ランブコード	連結路 (ランプ)

4. 距離標

キロポスト k m (自) (至)

キロポストからの実距離

キロポストからの実距離 m

10. 路面騒音

測定年月 元号 年 月
測定方法 R

測定方法 1: 関東地方整備局所有の路面騒音測定車
2: 近畿地方整備局所有の路面騒音測定車
3: 九州地方整備局所有の路面騒音測定車
4: 中国地方整備局所有の路面騒音測定車
5: 道路建設業協会所有の路面騒音測定車
9: その他

測定車両の平均速度 km/h
気温 度℃
路面温度 度℃
路面騒音値 デシベル

5. 施工年月

元号 年 月
R

6. 性能確認時期

1: 施工直後
2: 1年後
9: その他

7. 平たん性

測定年月 元号 年 月
測定方法 R

測定方法 1: 3mプロファイルメータによる方法
2: 3m直線定規による方法
3: 路面性状測定車による方法
9: その他

凹凸量の標準偏差1 mm
凹凸量の標準偏差2 mm
(標準偏差1: 平たん性の障害となるマンホール等の部分のデータを除外しない値)
(標準偏差2: 平たん性の障害となるマンホール等の部分のデータを除外した値)

8. 浸透水量

測定年月 元号 年 月
測定方法 R

測定方法 1: 現場透水量試験器
9: その他

道路の区分 1: 第1種、第2種、第3種第1級
及び第2級並びに第4種第1級
2: その他

浸透水量 わだち部 (OWP)
非わだち部 (BWP)

ミリリットル/15秒
ミリリットル/15秒

11. わだち掘れ

測定年月 元号 年 月
測定方法 R

測定方法 1: 横断プロファイルメータによる方法
2: 直線定規による方法
3: 水糸による方法
4: 路面性状測定車による方法
9: その他

わだち掘れ量 (最大値) mm
わだち掘れ量 (平均値) mm

工事関係電子書類一覧表(作成書類の役割分担・位置付け)

※必要に応じ、項目を追加し、作成書類の役割分担を明確化すること

※本様式もASP(情報共有システム)で電子で管理すること

▼不要

工 事 関 係 書 類			工事関係書類 の 標準様式(案) (様式No)	作成書類 役割分担		発注者作成 書類の位置づけ		受注者作成書類の位置付け						工事書類作成 媒体の 事前協議		備 考		
作成 時期	種 別	No.		書 類 名 称	書類作成の根拠	発注者	受注者	指示	通知	提出		提示	監督職員 へ連絡	監督職員 へ納品	電子 ☆		紙 ◎	
										受注者	受注者							監督 職員
工事着手前	作成書類の 役割分担	設計 審査会 で 確認	1【事例】 工事のお知らせ(自治会、住民等 への周知)	共通仕様書1-1-1-37-7	—		○						○				令和〇年〇月〇日設計審査会で確認	
			2【事例】 関係機関(〇〇〇)協議結果に基づ く届出	共通仕様書1-1-1-37-2	—		○						○				令和〇年〇月〇日設計審査会で確認	
			3【事例】 土壌汚染対策法第4条1項に基づ く届出	土壌汚染対策法第4条1項	—	○			○								土地の形質の変更に着手する日の30日前までに届 け出	
			4【事例 概算概略発注等のため関係 機関協議が実施中、未了の場合】 関係機関(〇〇〇)との設計・施工 協議	河川法、道路法、道路交通 法等の個別法	—	○			○								令和〇年〇月〇日設計審査会で確認	
			5【事例 概算概略発注のため関係機 関協議が実施中、未了の場合】 占用物件(〇〇〇)の移設の調整、 監督処分	河川法、道路法	—	○			○								令和〇年〇月〇日設計審査会で確認	
			6【事例】 設計図書、条件明示と現地の不整 合による協議資料	共通仕様書1-1-1-3-2	—		○			○								令和〇年〇月〇日設計審査会で確認
			7【事例】 設計図書、条件明示と現地の不整 合による設計図修正(構造計算の 件うものや大幅な修正)	共通仕様書1-1-1-15	—	○		○									令和〇年〇月〇日設計審査会で確認 個別の図面修正等について受発注者間で協議し役 割分担を決定。 (受注者が実施する場合は、設計費用を発注者が 負担する)	
	契約 図書	設計 図書	8 工事請負契約書	—	—	○												
			9 共通仕様書	—	—	○												
			10 特記仕様書	—	—	○												
			11 発注図面	—	—	○												
			12 現場説明書	—	—	○												
			13 質問回答書	—	—	○												
			14 工事数量総括表	—	—	○												
契約関係書類		15 現場代理人等通知書	工事請負契約書第10条1項	様式ー1		○				○								
		16 請負代金内訳書	工事請負契約書第3条1項 共通仕様書3-1-1-1	様式ー2		○				○							契約書を作成する全ての工事	
		17 工事工程表	工事請負契約書第3条1項	様式ー3		○				○								
		18 掛金収納書(電子申請方式)	現説時指導事項(R3.3.31付 国会公契第71号) 共通仕様書1-1-1-42-5	様式ー4		○				○							電子申請を使用しない場合は、「掛金収納書提出 用台紙」に掛金収納書を張り付けた上、提出する。 なお、スキャン、撮影によるデータ化も可とする。	
		19 建退共証紙受払簿	現説時指導事項(R3.3.31付 国会公契第71号)	—		○					○							
		20 工事別共済証紙受払簿	現説時指導事項(R3.3.31付 国会公契第71号)	—		○					○							
		21 掛金充当実績総括表	現説時指導事項(R3.3.31付 国会公契第71号)	—		○					○							
		22 被共済者就労状況報告書	現説時指導事項(R3.3.31付 国会公契第71号)	—		○					○							
		23 掛金充当書	現説時指導事項(R3.3.31付 国会公契第71号)	—		○					○							
		24 請求書(前払金)	工事請負契約書第34条1項	様式ー5		○				○								
		25 VE提案書(契約後VE時)	特記仕様書	様式ー6		○					○						契約締結後にVE提案を行う場合に提出する。	
その他		26 品質証明員通知書	共通仕様書3-1-1-6-(5)	様式ー7		○				○							契約図書で規定された場合に提出する。	
		27 再生資源利用計画書 ー建設資材搬入工事用ー	共通仕様書1-1-1-19-4	—		○				○							該当する建設資材を搬入する予定がある場合、建 設副産物情報交換システムにより作成し、施工計 画書へ含めて提出する。	
		28 再生資源利用促進計画書 ー建設副産物搬出工事用ー	共通仕様書1-1-1-19-5	—		○				○							該当する建設副産物を搬出する予定がある場合、 建設副産物情報交換システムにより作成し、施工 計画書へ含めて提出する。	
		29 建設発生土搬出調査	特記仕様書	—		○				○								
		30 建設発生土搬出のお知らせ	「建設発生土の搬出先への情報提供に ついて」(H10.1.27付建設部令第8号の2)	—		○				○								
工事書類	1 施工 計画	① 施工 計画	31 施工計画書	共通仕様書1-1-1-4-1	—		○				○						工事着手前又は施工方法が確定した時期に監督 職員に提出 重要な変更が生じた場合(工期や数量等の軽微な 変更以外)には、その都度当該工事に着手する前 に、変更施工計画書を監督職員に提出する。	
			32 ISO9001品質計画書	H16.9.1付国官技第117号	—		○				○							
			33 設計図書の照査確認資料 (契約書18条に該当する事実があっ た場合)	共通仕様書1-1-1-3-2	—		○				○							
			34 工事測量成果表(仮BM及び多角 点の設置)	共通仕様書1-1-1-39-1	—		○				○							
			35 工事測量結果(設計図書との照合) (設計図書と差異有り)		—		○				○							設計図書と差異があった場合にのみ監督職員に提 出する。
	2 施工 体制	② 施工 体制	36 施工体制台帳	共通仕様書1-1-1-10-1	—		○				○						・「施工体制台帳に係る書類の提出について」の 一部改正について(令和3年3月5日付け国官技 第319号、国官整第10号)に基づき作成する。 ・建設業及び営繕業以外は不要	
			37 施工体系図	共通仕様書1-1-1-10-2	—		○				○							
			38 作業員名簿		—		○				○							

別紙様式－7

工事関係電子書類一覧表(作成書類の役割分担・位置付け)

※必要に応じ、項目を追加し、作成書類の役割分担を明確化すること

※本様式もASP(情報共有システム)で電子で管理すること

▼不要

工 事 関 係 書 類					作成書類 役割分担		発注者作成 書類の位置づけ		受注者作成書類の位置付け						工事書類作成 媒体の 事前協議		備 考
作成 時期	種 別	No.	書 類 名 称	書類作成の根拠	工事関係書類 の 標準様式(案) (様式No)	発注者	受注者	指示	通知	提出		提示	監督職員 へ連絡	監督職員 へ納品	電子 ☆	紙 ◎	
施 工 中	3 施 工 状 況	③ 施 工 管 理	39	工事打合せ簿(指示)	共通仕様書1-1-1-2-15	様式－9	○										協議の根拠となる一般的な諸基準類のコピーは添付不要。
			40	工事打合せ簿(協議)	共通仕様書1-1-1-2-17	様式－9		○		○							
			41	工事打合せ簿(承諾)	共通仕様書1-1-1-2-16	様式－9		○		○							
			42	工事打合せ簿(提出)	共通仕様書1-1-1-2-18	様式－9		○		○							
			43	工事打合せ簿(報告)	共通仕様書1-1-1-2-20	様式－9		○		○							
			44	工事打合せ簿(通知)	共通仕様書1-1-1-2-21	様式－9		○		○							
			45	材料確認書	共通仕様書2-1-2-4	様式－10		○		○							
		③ 施 工 管 理	46	材料納入伝票	共通仕様書2-1-2-1	－		○				○					設計図書に記載しているもの以外は材料確認書の提出は不要。 設計図書で指定した材料や監督職員から請求があった場合は提出する。 ・契約図書で規定された場合のみ対象 ・段階確認書に添付する資料は新たに作成する必要なし ・監督職員又は現場技術員が臨場した場合の状況写真等は不要 ・監督職員又は現場技術員が臨場して段階確認した箇所は、出来形管理写真の撮影を省略できる。
			47	段階確認書	共通仕様書3-1-1-4-6-3	様式－11		○		○							
			48	確認・立会依頼書	共通仕様書3-1-1-4-1	様式－12		○		○							
			49	休日・夜間作業届	共通仕様書1-1-1-38-2	－		○					○				
			50	安全教育訓練実施資料	共通仕様書1-1-1-28-11	－		○				○					
			51	工事故速報	共通仕様書1-1-1-31	様式－13		○		○			○				
			52	工事故報告書	共通仕様書1-1-1-31	－		○		○							
		④ 安 全 管 理	53	工事履行報告書	工事請負契約書第11条 共通仕様書1-1-1-25	様式－14		○		○							週間工程会議やASPにより事前連絡する。 ただし、現道の工事については「提出」とする。 監督職員へ実施内容の提示のみで提出不要。 事故が発生した場合、直ちに連絡するとともに、事故の概要を書面により速やかに報告する。 事故報告書はSAS(建設工事故データベースシステム)により作成して提出するほか、監督職員から請求があった資料を提出する。 工程の進捗状況を把握するため、実施工程表の提示を求めることがある。根拠資料の添付不要。 指定材料のみ提出(設計図書で指定した材料を含む)。
		⑤ 管 工 管 理	54	品質規格証明資料	共通仕様書2-1-2-1	－		○		○							
施 工 中	3 施 工 状 況	④ 安 全 管 理	55	認定請求書	工事請負契約書第35条4項	様式－15		○		○							
			56	請求書(中間前払金)	工事請負契約書第35条3項	様式－5		○		○							
			57	指定部分完成通知書	工事請負契約書第39条1項	様式－16		○		○							
			58	指定部分引渡書	工事請負契約書第39条1項	様式－17		○		○							
			59	請求書(指定部分完済払金)	工事請負契約書第39条1項	様式－5		○		○							
			60	出来高内訳書	工事請負契約書第38条2項 共通仕様書1-1-1-22-2	様式－18		○		○							
		⑤ 管 工 管 理	61	請負工事既済部分検査請求書	工事請負契約書第38条2項	様式－19		○		○							中間技術検査時にも提出する。
			62	出来形報告書 (数量内訳書、出来形図)	共通仕様書3-1-1-8-6	－		○		○							
			62	出来高内訳書	工事請負契約書第38条2項 共通仕様書1-1-1-22-2	様式－18		○		○							
			63	請求書(部分払金)	工事請負契約書第38条5項	様式－5		○		○							
			64	修補完了届	工事請負契約書第32条1項 工事請負契約書第32条6項	様式－21		○		○							
			65	部分使用承諾書	工事請負契約書第34条1項	様式－22		○		○							
		⑥ 管 工 管 理	66	工期延期願	工事請負契約書第16条～22条	様式－23		○		○							部分使用がある場合に提出する。 工期延期が発生する場合に提出する。 支給品を受領した場合に提出する。 支給品がある場合に提出する。 建設機械の貸与がある場合に提出する。 建設機械の貸与がある場合に提出する。 現場発生品がある場合に提出する。
			67	支給品受領書	工事請負契約書第15条3項	様式－24		○		○							
			68	支給品精算書	共通仕様書1-1-1-17-3	様式－25		○		○							
			69	建設機械使用実績報告書	共通仕様書1-1-1-17-5	様式－26		○		○							
			70	建設機械借用・返納書	工事請負契約書第15条3項	様式－27		○		○							
			71	現場発生品調書	共通仕様書1-1-1-18	様式－28		○		○							
施 工 中	3 施 工 状 況	⑦ 管 工 管 理	72	出来形報告書 (数量内訳書、出来形図)	共通仕様書3-1-1-8-6	－		○		○							既済部分検査等の際に提出する。 ・産業廃棄物がある場合に監督職員へ提示すればよく、コピーの提出不要。 新技術情報提供システム(NETIS)に登録されている技術を活用して工事施工する場合に提出する。
			73	産業廃棄物管理表(マニフェスト)	共通仕様書1-1-1-19-2	－		○				○					
			74	建設発生土搬出調書	特記仕様書	－		○				○					
			75	建設発生土搬出のお知らせ	特記仕様書	－		○				○					
			76	新技術活用関係資料	特記仕様書	－		○				○					

工事関係電子書類一覧表(作成書類の役割分担・位置付け)

※必要に応じ、項目を追加し、作成書類の役割分担を明確化すること

※本様式もASP(情報共有システム)で電子で管理すること

▼不要

工 事 関 係 書 類					作成書類 役割分担		発注者作成 書類の位置づけ		受注者作成書類の位置付け						工事書類作成 媒体の 事前協議		備 考
作成 時期	種 別	No.	書 類 名 称	書類作成の根拠	工事関係書類 の 標準様式(案) (様式No)	発注者	受注者	指示	通知	提出		提示	監督 職員 へ連絡	監督職員 へ納品	電子 ☆	紙 ◎	
						受注者	受注者	監督 職員	契約 担当課	発注 担当課	受注者 保管						
工事 完成 時	契約関係書類	77	完成通知書	工事請負契約書第32条1項	様式ー29		○				○						
		78	引渡書	工事請負契約書第32条4項	様式ー30		○				○						
		79	請求書(完成代金)	工事請負契約書第33条1項	様式ー5		○				○						
	工事書類	80	出来形管理図表	共通仕様書1-1-1-24-8	様式ー31		○				○						・施工中は提示とし、工事完成時に提出とする。 ・出来形の測定位置が分かるように略図を記載する。 ・測定結果総括表、測定結果一覧表、出来形管理図(工程能力図)、度数表(ヒストグラム)については、出来形管理図表にて代用可能なため提出不要。
		81	品質管理図表	共通仕様書1-1-1-24-8	様式ー32		○				○						・施工中は提示とし、工事完成時に提出とする。 ・品質の測定位置が分かるように略図を記載する。 ・測定結果総括表、測定結果一覧表、品質管理図(工程能力図)、度数表(ヒストグラム)については、品質管理図表にて代用可能なため提出不要。
		82	品質証明書	共通仕様書3-1-1-6-(1)	様式ー33		○				○						・契約図書で規定された場合に提出する。 ・品質証明に関する添付書類は提出不要
		83	工事写真	共通仕様書1-1-1-24-8	ー		○				○				☆		・工事写真の撮影に当たっては、写真管理基準(案)を適用する。 ・電子納品等運用ガイドライン(案)【土木工事編】に基づき提出する。 ・紙の工事写真帳の提出不要 ・不可視部分を含め、監督職員又は現場技術員が臨場して確認した箇所は、出来形管理写真等の撮影は省略 ・監督職員等が確認や立会っている状況写真等も不要
		84	総合評価実施報告書	総合評価落札方式の実施について(H12.9.20付建設省厚発第30号)	ー		○				○						総合評価落札方式を適用して契約した場合に提出する。
		85	創意工夫・社会性等に関する実施状況	特記仕様書 共通仕様書3-1-1-10	様式ー34		○				○						自ら立案実施した創意工夫や地域社会への貢献として、特に評価できる項目を実施すれば提出できる。 1.工事につき最大10項目までの提出とする。
	工事完成図書	86	工事完成図	共通仕様書1-1-1-20 共通仕様書3-1-1-7	ー		○				○			○	☆		・電子納品等運用ガイドライン(案)【土木工事編】に基づき、原則、電子成果品で納品する。
		87	工事管理台帳	共通仕様書3-1-1-7 特記仕様書	ー		○				○			○	☆		・電子納品等運用ガイドライン(案)【土木工事編】に基づき、原則、電子成果品で納品する。
	その他	88	再生資源利用実施書 ー建設資材搬入工事用ー	共通仕様書1-1-1-19-6	ー		○				○						該当する建設資材を搬入した場合、建設副産物情報交換システムにより作成して提出する。
		89	再生資源利用促進実施書 ー建設副産物搬出工事用ー	共通仕様書1-1-1-19-6	ー		○				○						該当する建設副産物を搬出した場合、建設副産物情報交換システムにより作成して提出する。
工事 完成 後	その他	90	低入札価格調査 (間接工事費等諸経費動向調査票)	共通仕様書1-1-1-12-5-3	ー	○	○				○						「低入札価格調査制度」の調査対象工事の場合に 完成日から30日以内に提出する。

【遠隔臨場に関する基礎調査様式】

別紙様式－ 8

●基本情報

工事名	
会社名	
担当者名	
連絡先	
アドレス	

●遠隔臨場を適用した項目

No.	適用種別 (選択)	工 種 (自由記述)	細 別 (自由記述)	確認時期 (自由記述)	確認項目 (自由記述)	適用理由 (自由記述)	その他意見 (自由記述)
記入例	段階確認	矢板工	鋼矢板	打込時	長さ	・ 検尺及び目視確認が可能だったため ・ 確認頻度が多くあり、現場作業の調整の効率化を図るために実施	
記入例	段階確認	トンネル支保工		支保工完了時	ロックボルト 打込本数	・ 目視確認が可能だったため ・ 確認頻度が多くあり、現場作業の調整の効率化を図るために実施	トンネル内作業のため通信状況が悪かったがWIFIを追加して対応した

※行が不足する場合は、適宜行を追加願います。

●遠隔臨場を適用せず、従来の現場臨場とした項目

No.	適用種別 (選択)	工 種 (自由記述)	細 別 (自由記述)	確認時期 (自由記述)	確認項目 (自由記述)	適用理由 (自由記述)	その他意見 (自由記述)
記入例	段階確認	掘削工		土質の変化した時	土質、変化位置	・ 土(岩)質の確認は映像では困難のため	

※行が不足する場合は、適宜行を追加願います。

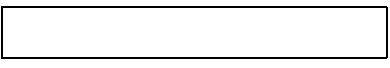
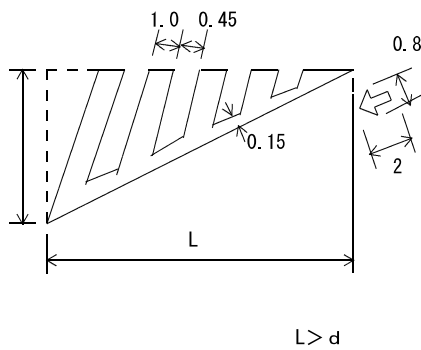
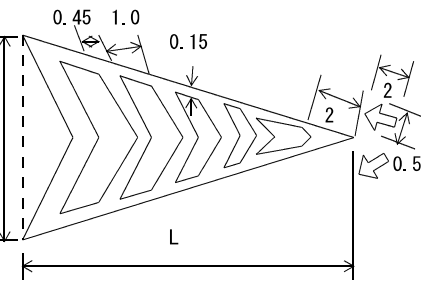
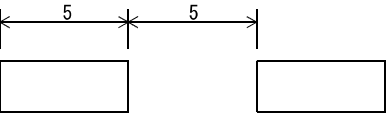
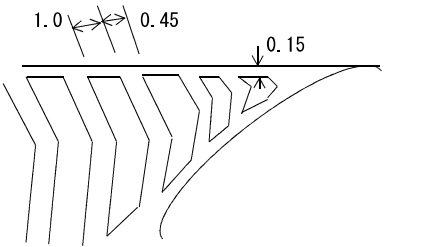
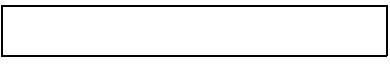
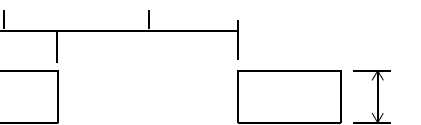
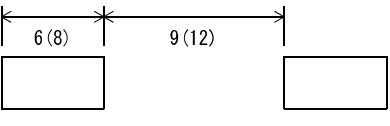
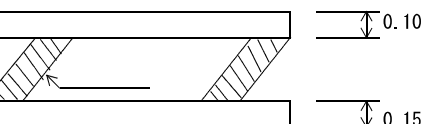
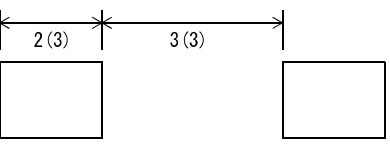
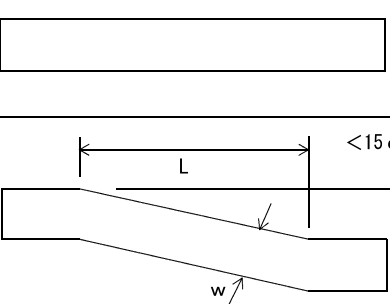
●遠隔臨場に使用した機器

No.	機器構成 (選択)	遠隔臨場システムの名称 (自由記述)	遠隔臨場システムのメーカー名 (自由記述)	監督職員PCとのセキュリティ上の通信可否 (自由記述)
記入例	パッケージシステム	Generation-eye	(株) Atos	ブラウザ版だったが直接監督職員PCと接続出来ず、PCを別途準備して対応

※行が不足する場合は、適宜行を追加願います。

区画線設置様式（例）

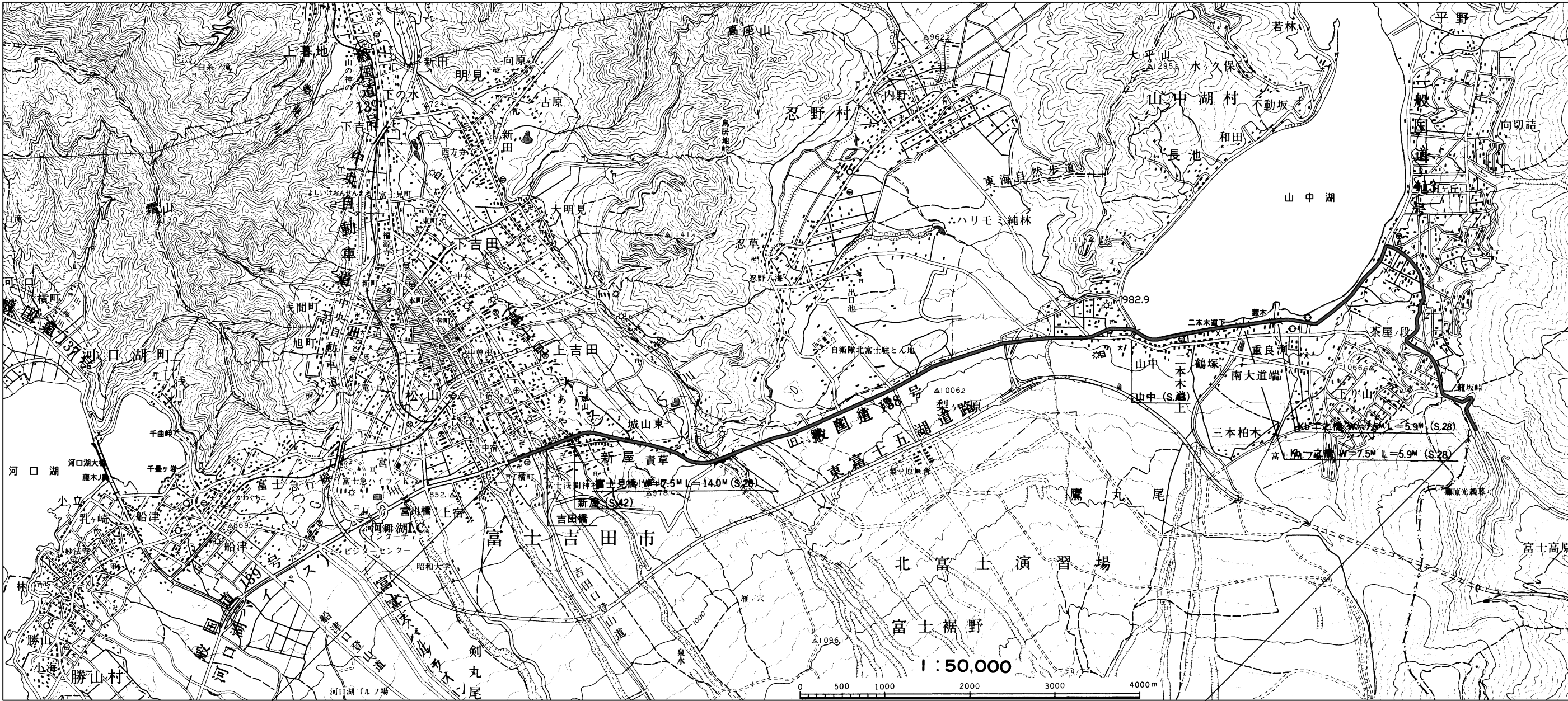
（単位：m）

区 分		幅 ・ 長 さ ・ 間 隔	区 分	幅 ・ 長 さ ・ 間 隔
車 道 中 央 線 (101)	実 線 1 本		路 の 上 障 害 物 近 接 (106)	
	実 線 2 本			
	破 線		導 流 帯 (107)	
車 線 境 界 線 (102)	実 線			
	破 線		路 駐 車 場 上 場 (108)	
車 外 側 道 線 (103)	登 坂 加 減 速 バ ス 停			
	車 道 幅 員 変 更 (105)		チャ ー ジ 分 離 帯 による パ ー ク ン グ	

（ ）内は自動車専用道路に適用

位置図(1) S=1:50,000

国道138号 1.080KP～15.300KP

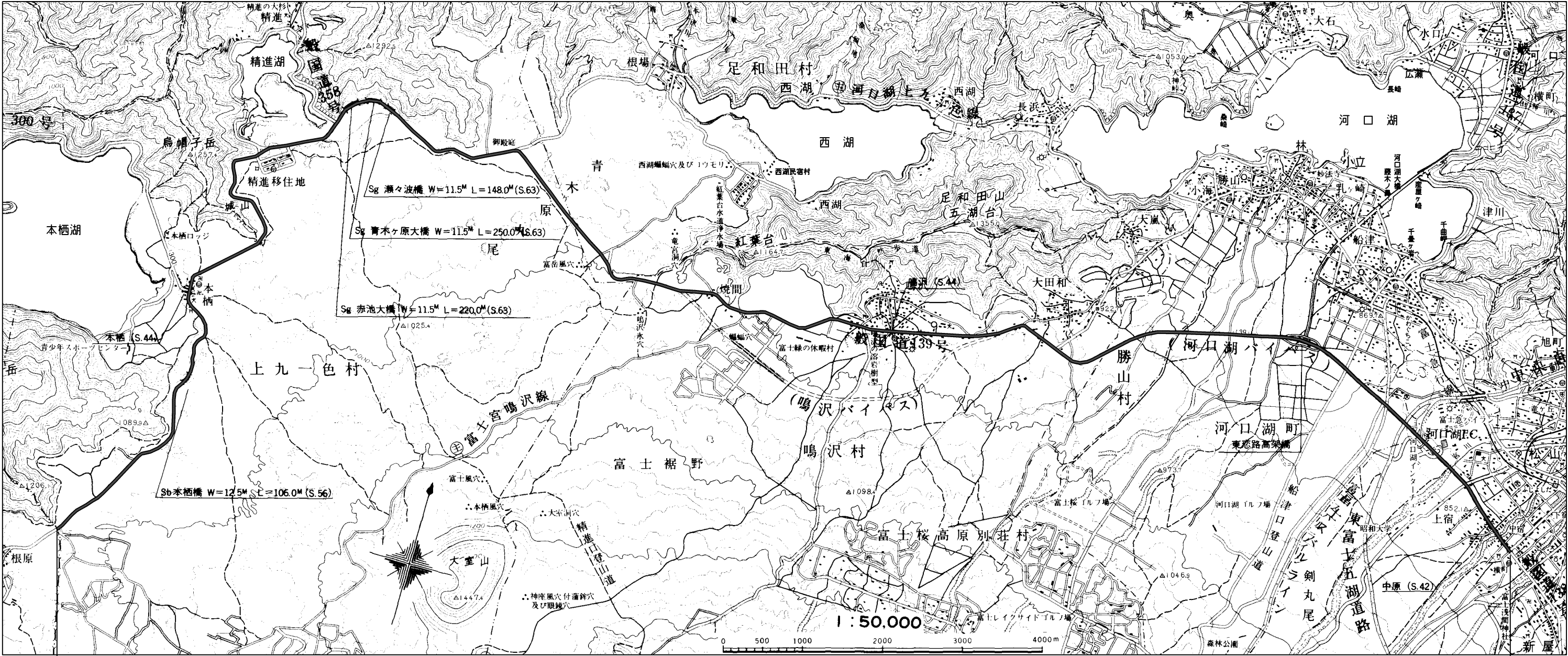


道路維持工事区間 L=14.248km

工 事 名		R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事							
図 面 名		位 置 図 (1)							
縮 尺		1 : 50,000		図面番号		4 の 1			
年 月 日		令和 8 年 2 月							
所 長		副 所 長		課 長		係 長		設 計	
設計会社名									
事務所名		国土交通省 甲府河川国道事務所							

位置図(2) S=1:50,000

国道139号 46.0KP～62.215KP

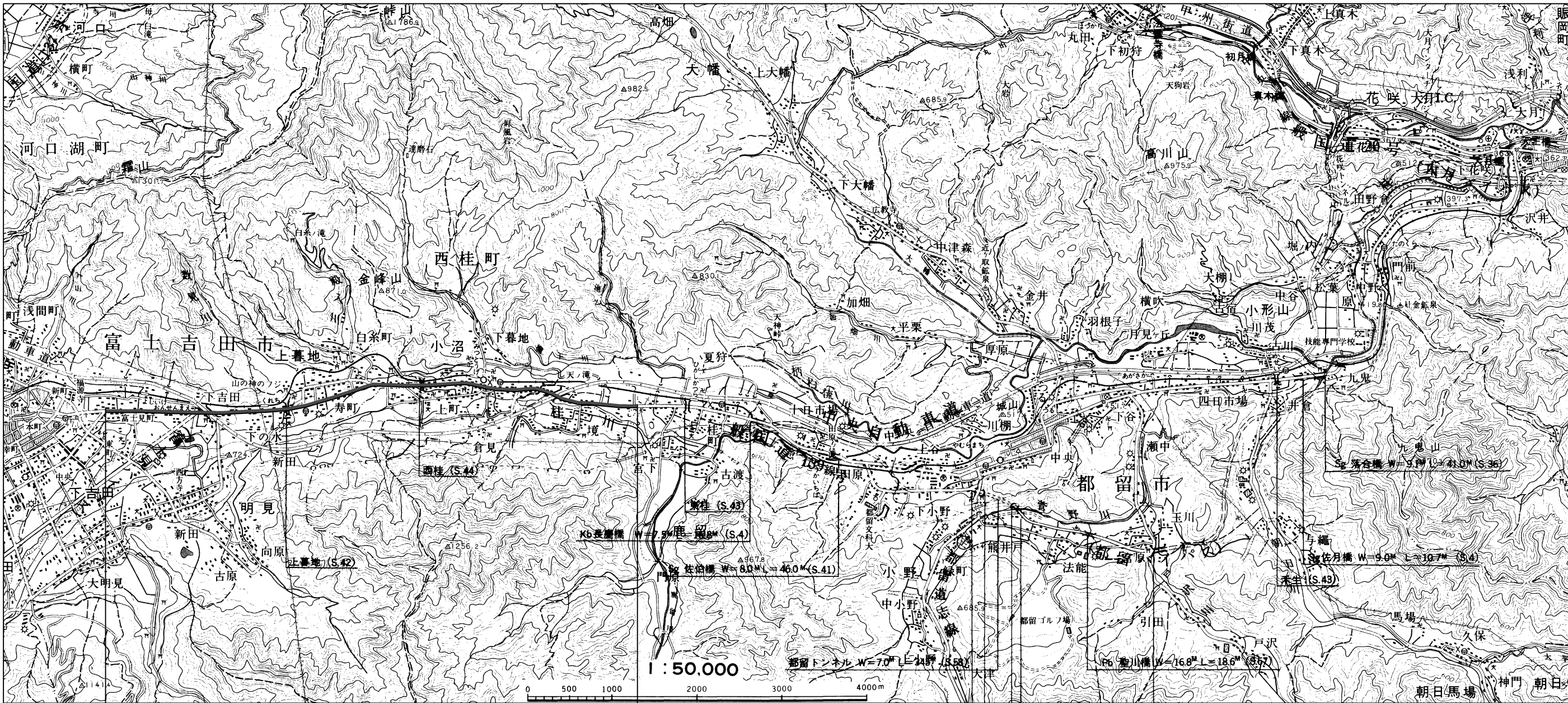


道路維持工事区間 L=31.962km

工 事 名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事		
図 面 名	位 置 図 (2)		
縮 尺	1 : 50,000	図面番号	4 の 2
年 月 日	令和 8 年 2 月		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 甲府河川国道事務所		

位置図(3) S=1:50,000

国道139号 66.6KP~86.350KP



道路維持工事区間 L=31.962km

大月出張所管内

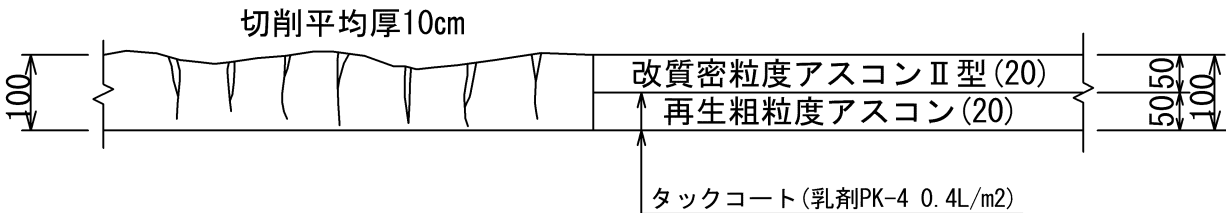
工事名	R8・9富士吉田道路維持工事		
図面名	位置図(3)		
縮尺	1:50,000	図面番号	4の3
年月日	令和8年2月		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 甲府河川国道事務所		

構造図

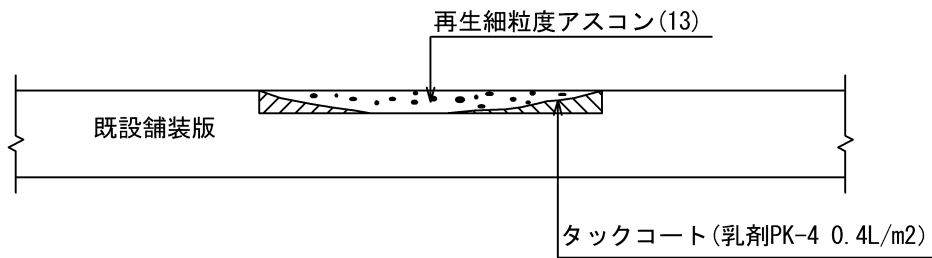
切削オーバーレイ工
(機械施工)

既設舗装版切削

オーバーレイ



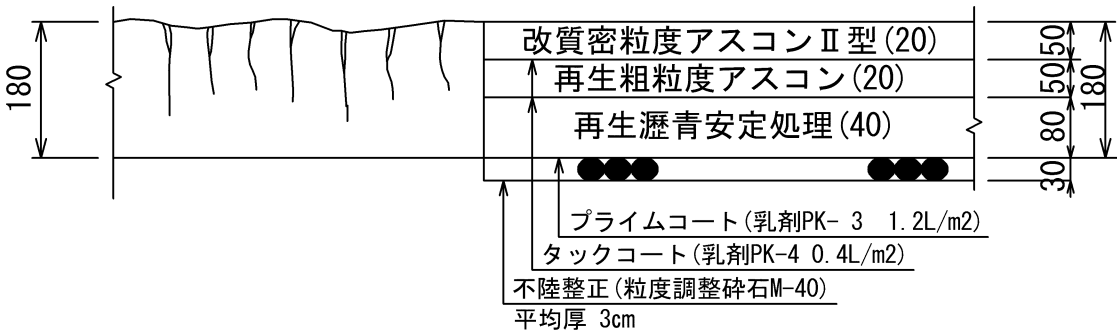
パッチング(加熱合材)



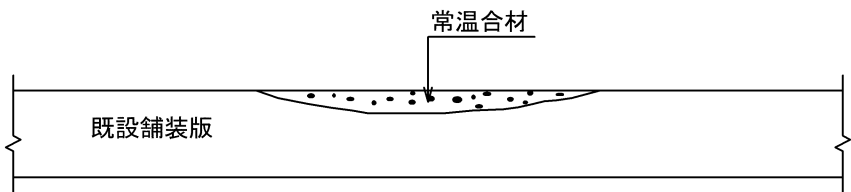
舗装打換え工(アスファルト舗装版)
(機械施工)

既設舗装版

舗装版打換



パッチング(常温合材)



工 事 名	R 8 ・ 9 富士吉田道路維持工事		
図 面 名	構 造 図		
縮 尺	—	図面番号	4 の 4
年 月 日	令和 8 年 2 月		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 甲府河川国道事務所		